



60代の実像①：満足度-70代に向けての苦悩

「60代6000人の声」アンケート調査2025より

合同会社フィンウェル研究所

代表 野尻哲史

2025年3月6日

3月18日改定

3月23日改定

4月17日改定

アンケート調査概要とレポートの特徴

4回目の「60代6000人の声」アンケート調査。回答者は6461人の都市居住者(人口30万人以上の都道府県庁所在の34都市)。継続している移住、満足度の他に、取り崩しの実施状況、70代以上の生活イメージ、賃貸か持ち家かなどを調査。

2025年「60代6000人の声」アンケート調査概要	
調査実施時期	2025年1月28日～2月3日
調査対象	60-69歳6461人（男性4915人、女性1546人）
居住地	3大都市圏2127人、100万人以上都市2159人、30万人以上都市2175人
家族構成	配偶者有り70.2%、同居の子ども有り28.6%、同居の親有り10.4%
持ち家	現在持ち家でそのまま住み続ける69.3%、現在賃貸でそのまま住み続ける22.2%
移住	過去10年以内に移住534人(3大都市から76人、それ以外の都市から458人)
移住の評価	移住して良かった78.1%、思ったほど良くなかった21.9%
世帯資産	資産非保有世帯比率25.0%、資産保有世帯の平均3456.2万円、同中央値1501-2000万円
世帯年収	平均532.4万円 (200万円以下20.0%、201-400万円26.9%、401-600万円20.8%、601万円以上32.3%)
生活全般に対する満足度(満足5点-不満足1点)	平均3.24点（健康状態3.29点、仕事・やりがい3.18点、人間関係3.50点、資産水準2.78点）
新NISA利用状況	活用している25.1%、新NISAになって使わなくなった9.5%、使うつもりはない55.1%
金融資産の取り崩し状況	取り崩していない65.3%、取り崩し始めている34.7%
70代以降の生活イメージ	今と変わらない41.6%、今より良くなっている5.6%、今より厳しくなっている52.8%

3大都市は東京・大阪・名古屋、100万人以上都市は札幌、仙台、さいたま、横浜、京都、神戸、広島、福岡、30-100万未満都市は秋田、宇都宮、前橋、千葉、新潟、富山、金沢、長野、岐阜、静岡、大津、奈良、和歌山、岡山、高松、松山、高知、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、那覇。

過去の「60代6000人の声」アンケートの概要

	2024年	2023年	2022年
実施時期	2月2日～2月6日	2月6日～2月8日	1月31日～2月3日
調査対象	60-69歳6506人	60-69歳6503人	60-69歳6486人
居住地	3大都市圏2144人、100万人以上都市2181人、30万人以上都市2181人	3大都市圏2149人、100万人以上都市2174人、30万人以上都市2180人	3大都市圏2131人、100万人以上都市2175人、30万人以上都市2180人
家族構成	配偶者有り71.8%、同居の子ども有り29.9%、同居の親有り10.2%	配偶者有り72.7%、同居の子ども有り29.7%、同居の親有り10.9%	配偶者有り70.1%、同居の子ども有り27.2%、同居の親有り7.0%
移住	過去10年以内に移住431人	過去10年以内に移住435人	過去10年以内に移住440人
移住の評価	良かった74.9%、良くなかった25.1%	移住して良かった72.6%、思ったほど良くなかった27.4%	75.9%、24.1%
世帯資産	非保有世帯比率20.3%、平均3119.8万円、中央値1500-2000万円	非保有世帯比率23.3%、平均2987.8万円、中央値1500-2000万円	非保有世帯比率16.8%、平均3238.6万円、中央値1501-2000万円
世帯年収	平均551.0万円 (公的年金も年収に加える)	平均552.9万円 (公的年金も年収に加える)	平均585.89万円 (無職者は退職直前年収を採用)
満足度	生活全般3.24点、資産水準2.81点	生活全般3.08点、金融資産2.69点	生活全般3.17点、金融資産2.80点
特別テーマ	新NISA利用状況 ：開設済み29.9%、開設予定16.0%、開設しない54.2%	金融リテラシー ：平均46.9点(5問の金融リテラシー・クイズの正答数を点数化)	特別テーマを含めず
	金融資産の取り崩し ：取り崩していない66.7%、取り崩し始めている33.2%	金融詐欺被害率 ：60代で被害1.5%、60代前に被害5.3%、被害にあわず93.2%	
	70代以降のイメージ ：変わらない41.9%、良くなっている5.6%、厳しくなっている52.4%	2000万円問題 ：内容を理解58.3%、言葉は知っている34.8%、聞いたことがない7.0%	

3大都市は東京・大阪・名古屋、100万人以上都市は札幌、仙台、さいたま、横浜、京都、神戸、広島、福岡、30-100万未満都市は秋田、宇都宮、前橋、千葉、新潟、富山、金沢、長野、岐阜、静岡、大津、奈良、和歌山、岡山、高松、松山、高知、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、那覇。金融リテラシークイズは、金融広報中央委員会の金融リテラシー調査の設問と同様の内容。

60代6000人の声：データ分析結果の要旨(1)

□ アンケート回答者の属性

- 60代の節目はやはり65歳。勤労収入から年金収入に変わる時期。
- 201-400万円が年収、年間生活費ともに最多帯。ただ年収401万円以上の層は、生活費401万円以上層より多く、全体としては「年収＞生活費」の傾向。68%が年金を最も頼りになる収入、47%が食費が最もかかる費用と考えている。
- 資産額では500万円未満層(資産無しを含む)と2001-5000万円層で二極化。それでも7割弱が現有資産で生活をなんとかカバーできると判断。資産延命策は勤労、生活費抑制、資産運用の順。
- 7割が有配偶、3割が子どもと同居、1割が親と同居。8割弱が持ち家。

□ 生活の満足度

- 資産水準の満足度は低いが、健康状態、仕事・やりがい、人間関係が高めで生活全般は「どちらかといえば満足」している状態。年齢が高まるほど満足度は高めに。
- 資産額が少ないほど資産満足度は低下。しかし同じ資産額なら年齢が高い方が資産満足度は高め。

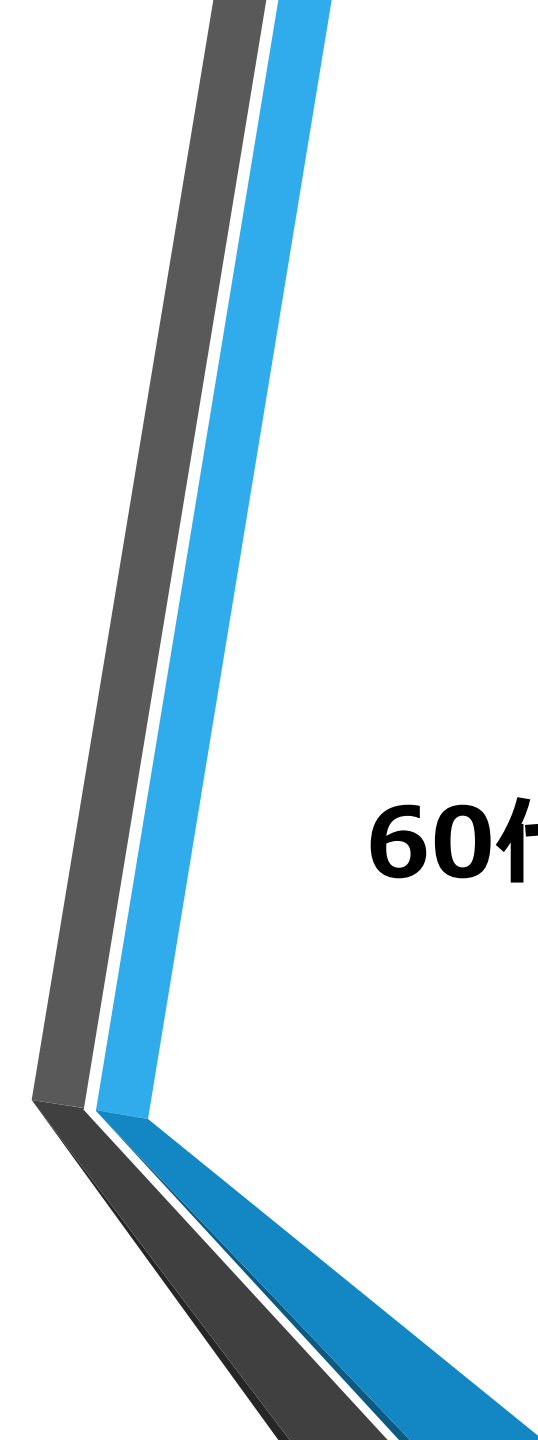
60代6000人の声：データ分析結果の要旨(2)

□ 70代に向けて

- 60代前半の方が70代以降の生活を厳しいと懸念。健康と資産が懸念の背景、そのため食生活に気を遣う。43%が80代以降よりも70代の生活に優先的に資産を使うつもり。
- 70代の生活イメージを高めているのは、生活全般、健康、資産水準の満足度の高さ。また世帯資産額の多さ、資産運用をやっていることもイメージを高めるように働く。

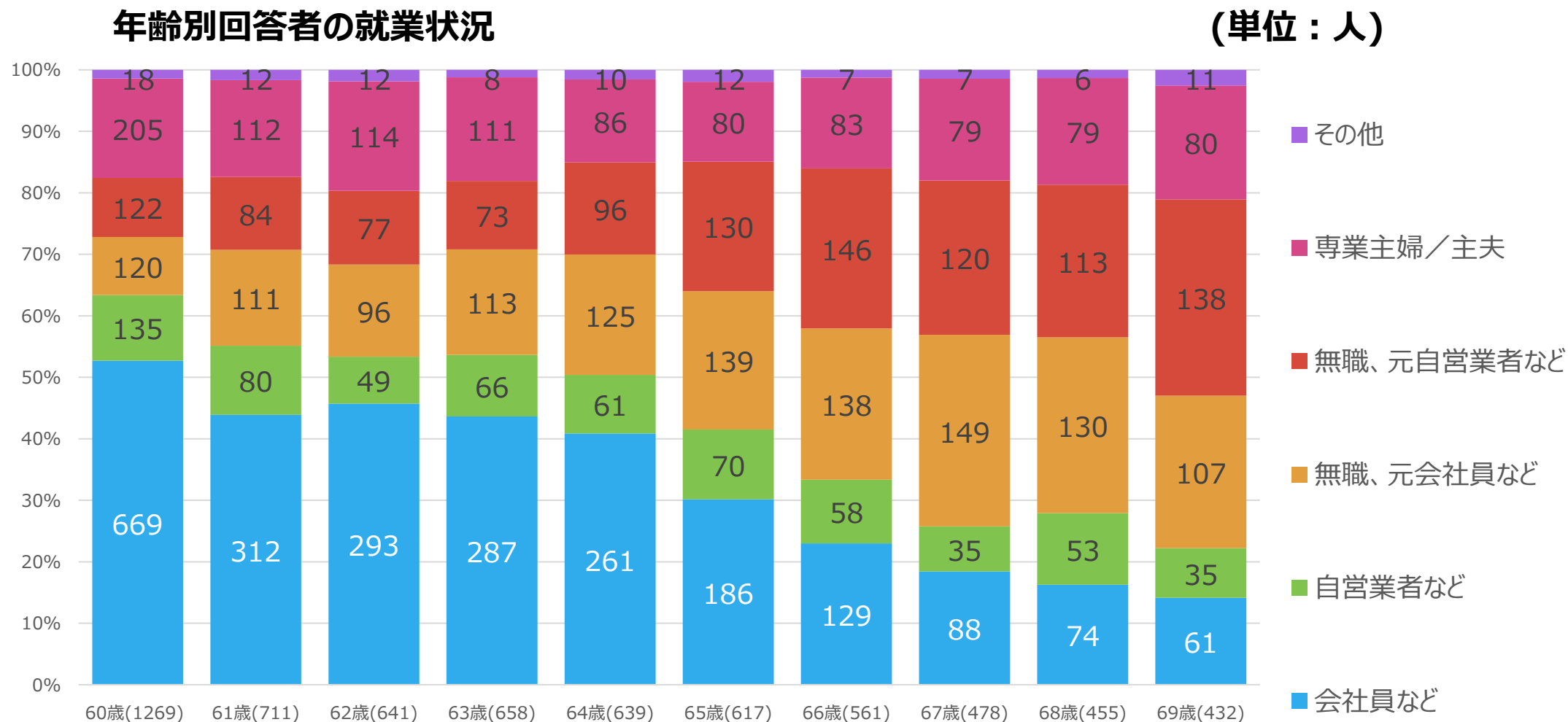
□ 地方都市移住

- 東京・大阪・名古屋に住む60代の16%が移住を考えたことがある。
- 実際、地方都市に移住した人の4分の3が、よかったと評価。その評価ポイントは生活費削減。よくなかったと評価した人も理由は生活費の削減が最大のポイント。
- 移住先候補として、その都市の住民の生活全般の満足度と退職後の生活場所としての推奨度の2つのデータから、札幌市、仙台市、横浜市、静岡市、神戸市、高松市が上位に。
- 都市生活推奨度を高める要素は、都市規模共通項は、医療体制と大都市へのアクセスの2点のみ。都市規模で明暗が出るのが、食事、家賃、気候、環境。
- 30万人以上都市では、「退屈」が推奨度に最も大きく影響する課題。



60代6000人の声 2025 : 回答者の属性

65歳で就業者が5割を下回る



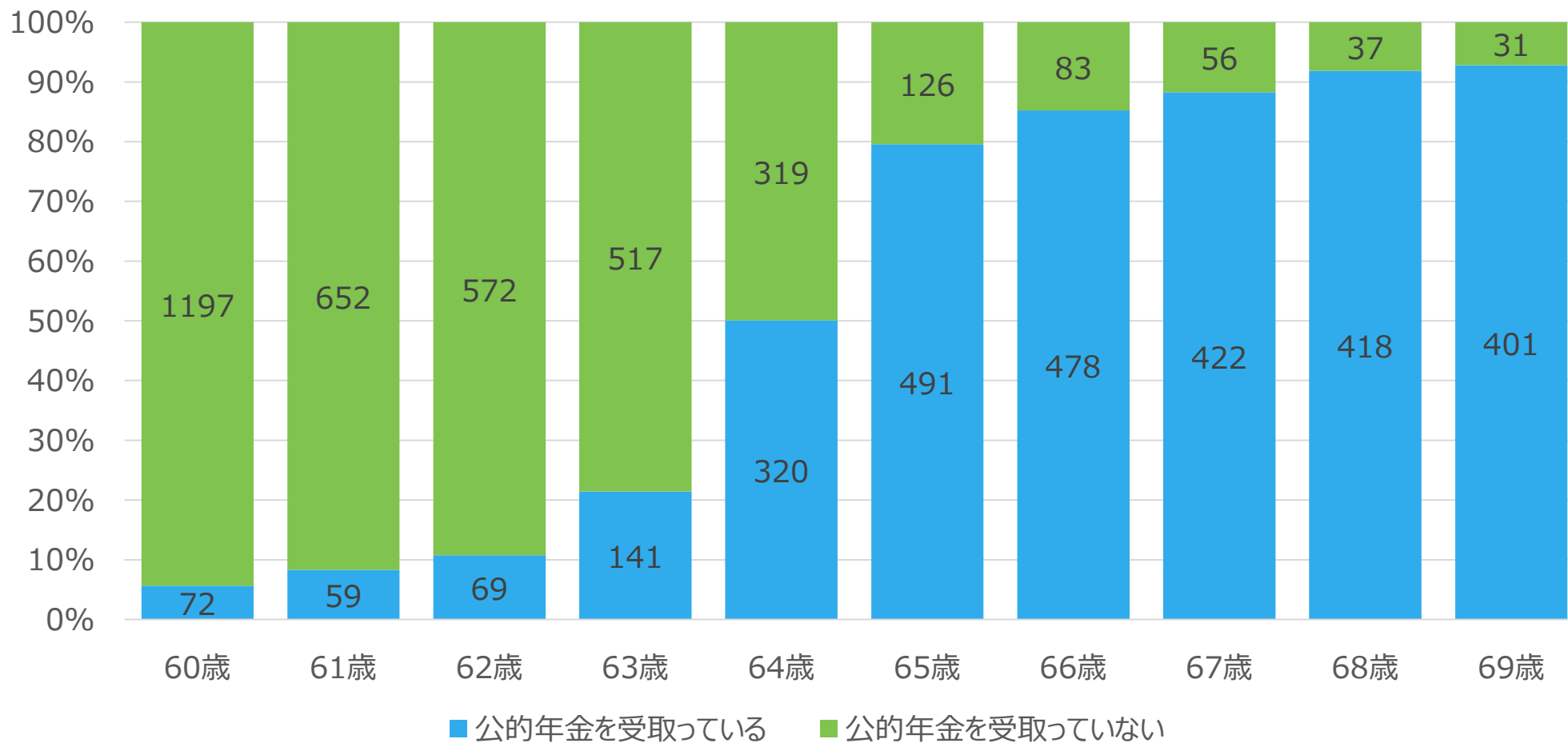
現役、会社員等とは「現在、会社役員、会社員・公務員・団体職員などの勤め人」、現役、自営業等とは「現在、自営業、自由業、個人事業主など」、無職、元会社員等とは「現在、無職または定年退職後に嘱託・契約社員、パート・アルバイトなど（定年退職前は会社役員、会社員などの勤め人）」、無職、元自営業者等とは「現在、無職または現役引退後に嘱託・契約社員、パート・アルバイトなど（定年退職前は自営業、自由業、個人事業主など）」、専業主婦・夫は、「専業主婦/主夫（パート・アルバイトなどを含む）」

(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

特別支給で64歳から年金受給

年齢別公的年金受給者の比率

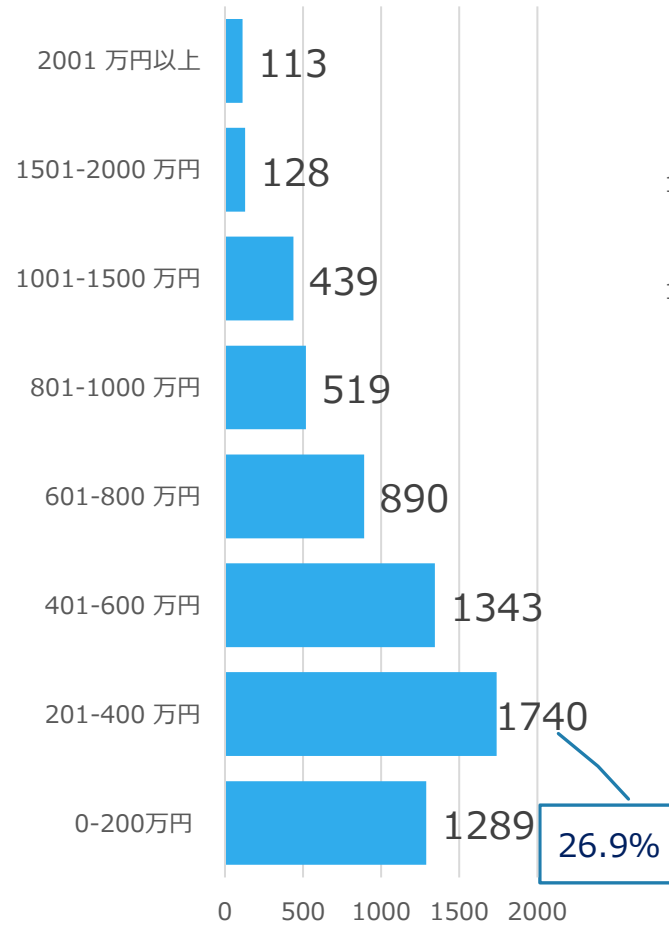
(単位：%)



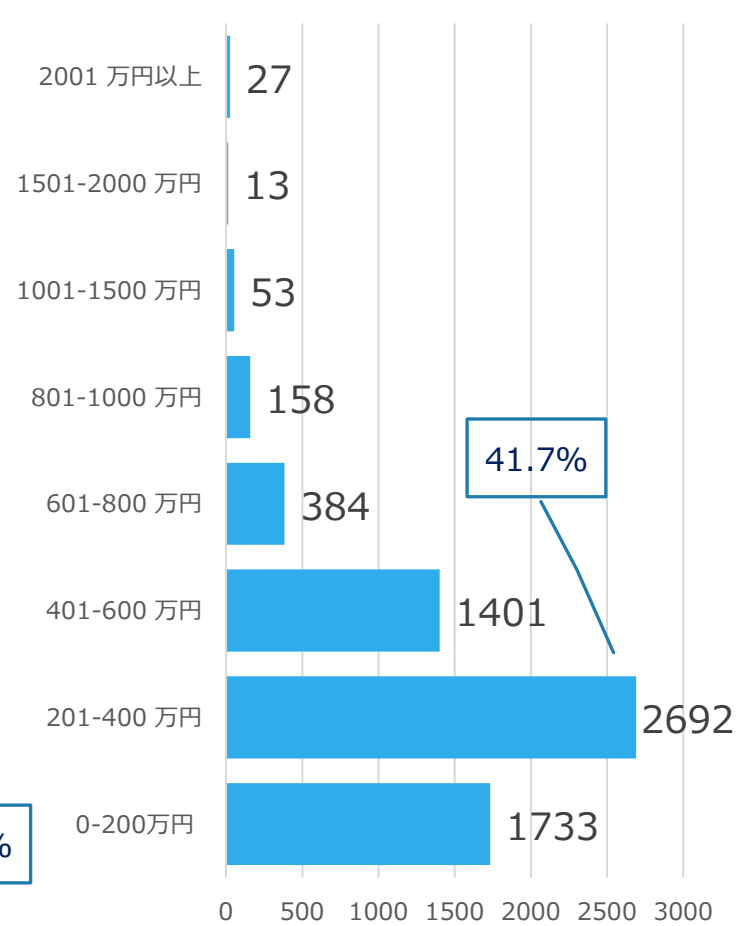
(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

年収、生活費、資産の特徴

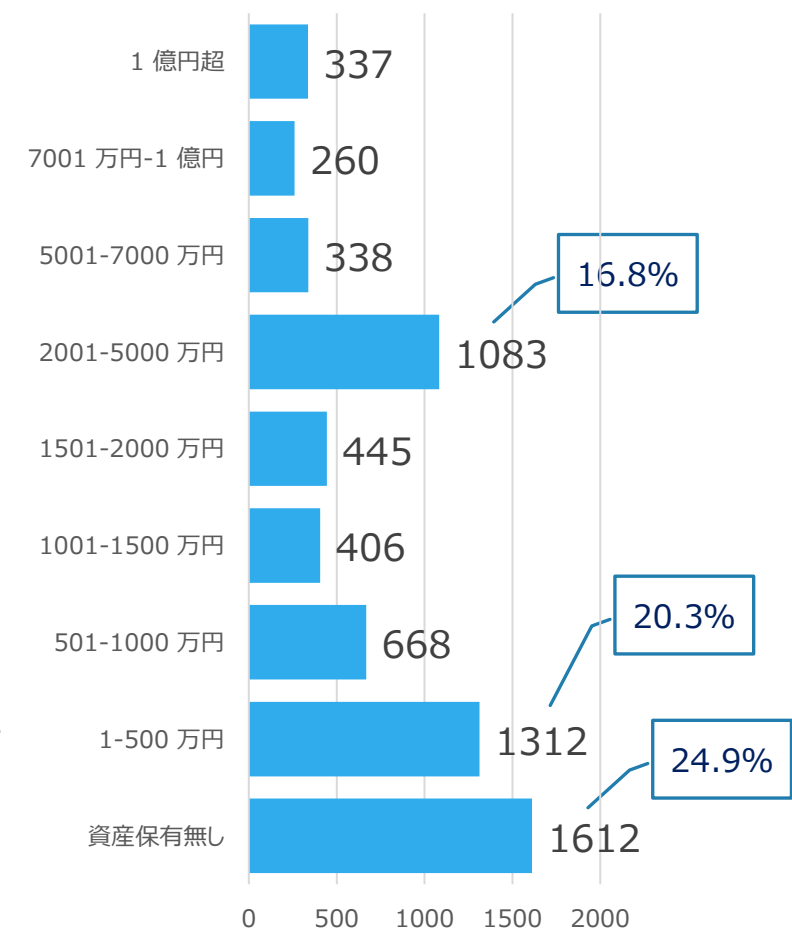
世帯年収別の回答者数分布



世帯生活費別の回答者数分布



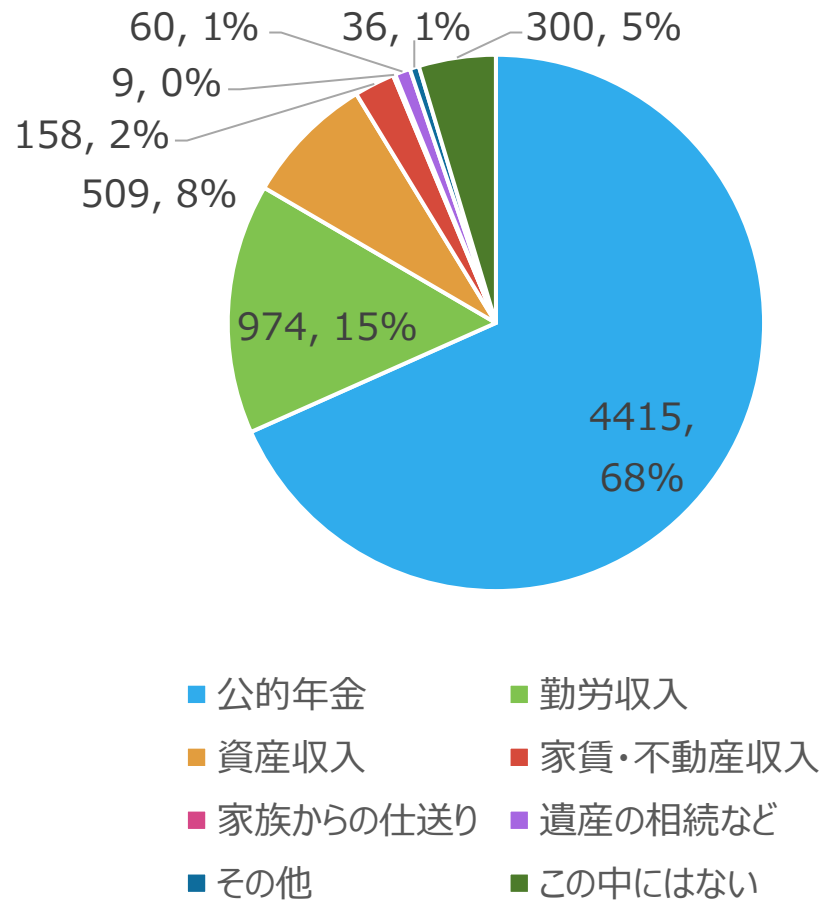
世帯保有資産別の回答者数分布



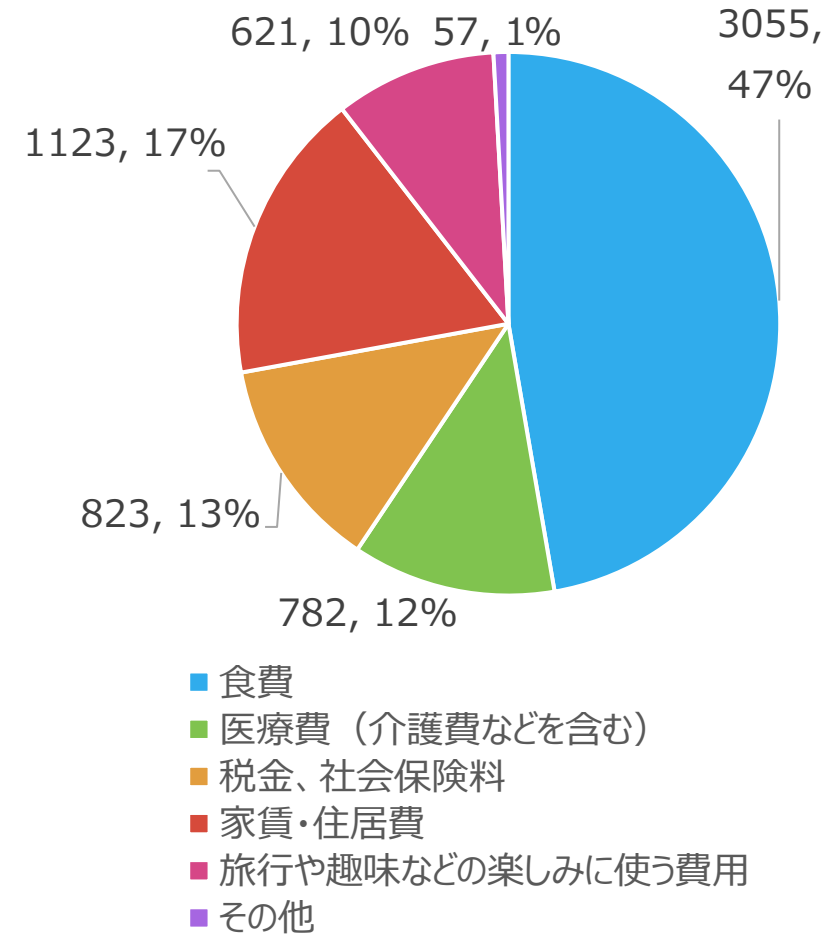
(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

頼りになる収入、最大支出

定年退職後に最も頼りになる収入(単位：人)



定年退職後に最もかかる費用(単位：人)

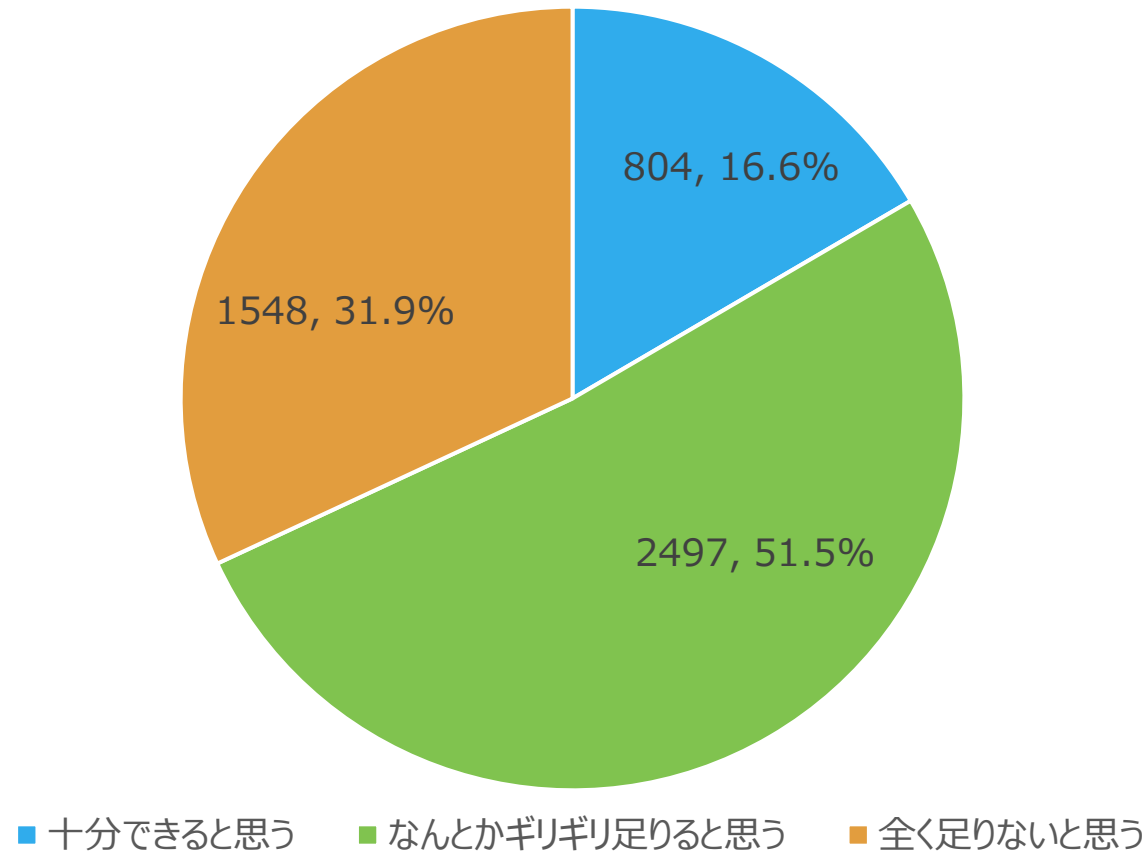


(注)回答者総数はいずれも6461名 (出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

7割が資産は足りると思う

現有資産で生活はカバーできると思うか

(単位：人、%)



(注)回答者総数は資産を保有していると回答した4849名 (出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

資産不足だけが課題ではない

現有資産で生活はカバーできないと思うのはなぜか(重回帰分析)

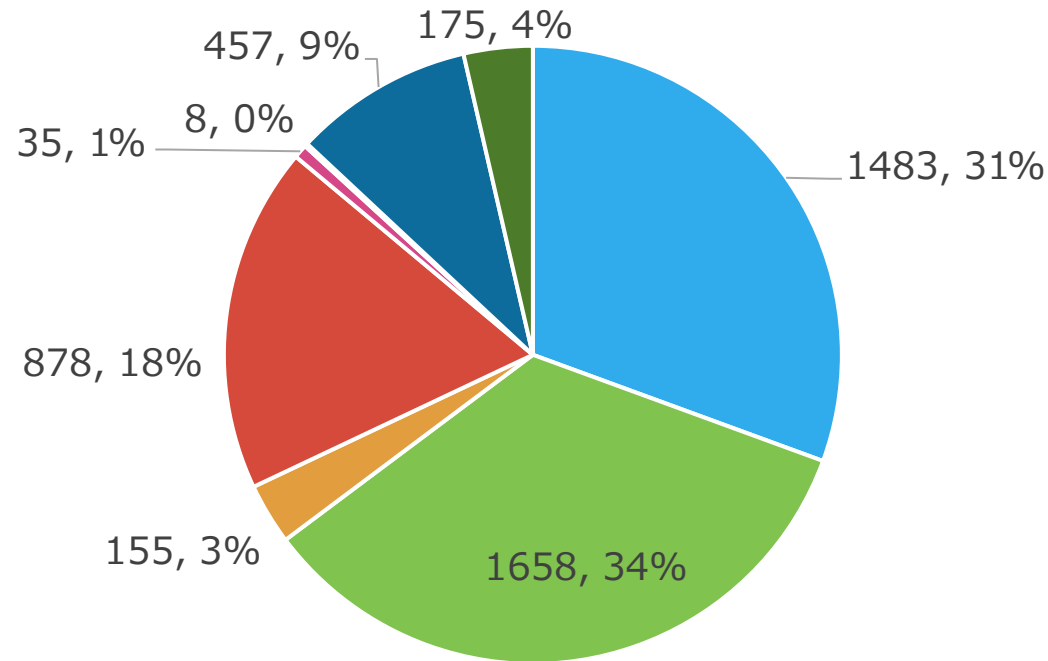
R2乗	0.525		
変 数	偏回帰係数	P 値	
資産水準満足度	-0.2432	P < 0.001	**
70代以降生活観	0.1926	P < 0.001	**
生活全般満足度	-0.0958	P < 0.001	**
性別	-0.0712	P < 0.001	**
資産運用	-0.0616	P < 0.001	**
居住状況	-0.0546	0.0018	**
人間関係満足度	0.0496	P < 0.001	**
同居の子ども	0.0417	0.0091	**
資産の使い道優先度	-0.0187	P < 0.001	**
年間生活費	0.0116	P < 0.001	**
世帯資産	-0.0048	P < 0.001	**
同居の親	0.0553	0.0159	*
年金受給	-0.0457	0.0202	*
健康状態満足度	-0.0018	0.8191	
仕事・やりがい満足度	0.0023	0.7966	
年齢	-0.0041	0.2180	
配偶者	0.0298	0.0805	
世帯年収	-0.0022	0.2885	
お金の近視眼度	-0.0065	0.1498	

- 多くの変数(11変数)が有意水準1%未満で、関係があることが分かった。
- ただ偏回帰係数は、資産水準の満足度と70代以降の生活観が高いだけで、残りの9変数の係数は水準が低い。
- 現有資産で生活をカバーできないとみているのは、①資産水準の満足度が低い、②70代以降の生活が厳しいとみている、③生活全般の満足度が低い、④女性、⑤資産運用をしていない人、⑥賃貸の人、⑦人間関係の満足度が高い人、⑧同居の子どもがいる人、など

(注)性別は男性 = 1、配偶者有り = 1、同居子ども有り = 1、同居親有り = 1、居住状況は持ち家 = 1、年金受給 = 1、資産運用は資産運用をしている = 1 でダミー化、お金の近視眼度は「1年後の11万円よりも今の10万円を受け取る」の当てはまらない度合い、資産の使い道は70代の生活を優先する度合い。**は1%未満、*は5%未満の有意度（出所）「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

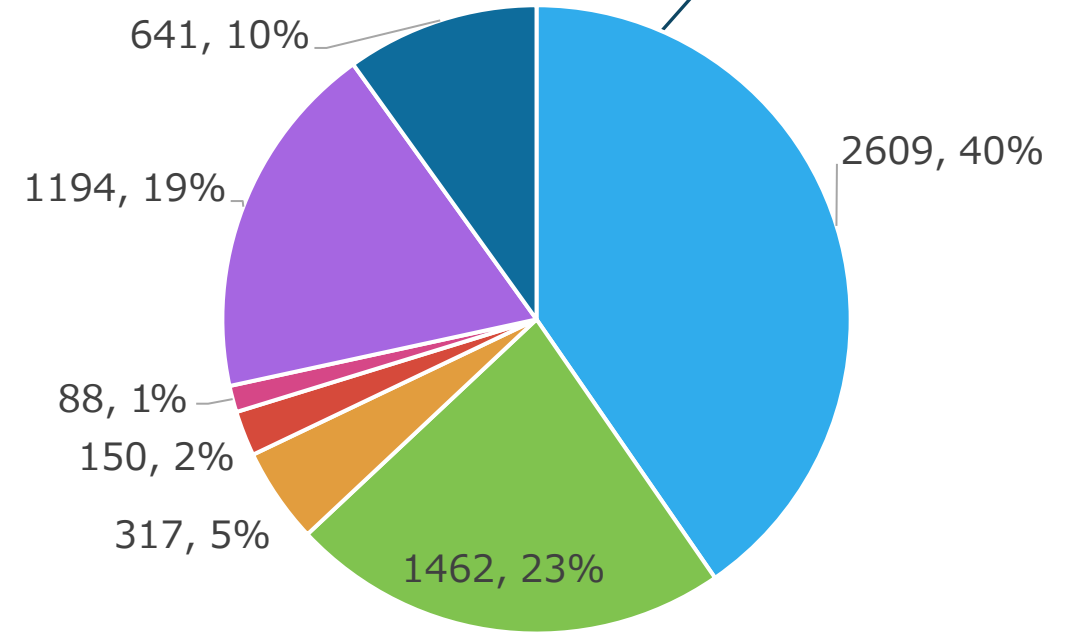
食費を切り詰めて資産を延命？

保有資産の延命策



- 生活費を切り詰めて支出を抑える
- 少しでも長く働いて収入を得る
- 少しでも金利の高い金融機関に預け替える
- 持っている資産を株・債券・投資信託などで運用することを考える
- 遺産などを当てにする
- その他
- 金融資産の延命策は特に考えていない
- この中にはない

生活費削減策



- 食費を切り詰める
- 健康増進を図って将来の医療費を抑える
- 家の住み替え等住居費のダウンサイジングを図る
- 生活費の安い地方都市などに移住する
- その他
- 生活費削減に貢献する施策はない
- この中にはない

生活費を切り詰めると回答した
1483人のうち、65.1%

(注)回答者総数は保有資産の延命策は資産保有者を対象として4849名、生活費削減施策はアンケート回答者全員6461名

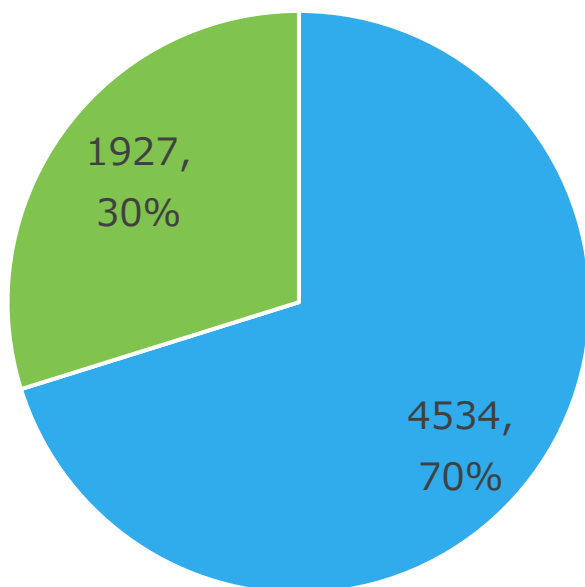
(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

©2025 FinWell Research LLC All rights reserved

配偶者7割、子ども3割、親1割

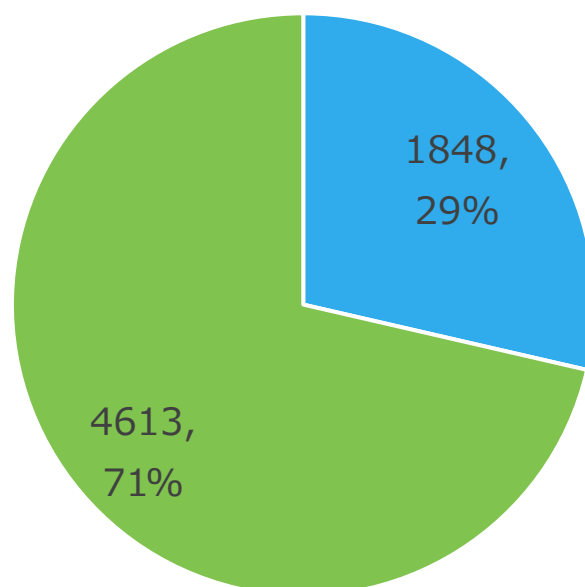
家族構成

配偶者の有無



■ 配偶者あり ■ 配偶者なし

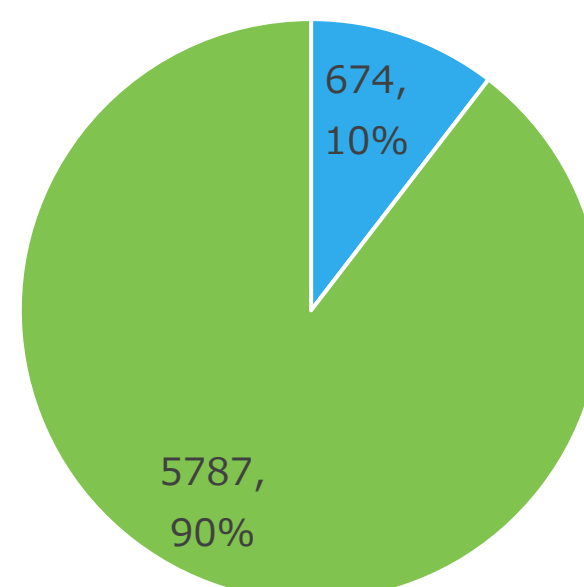
同居の子どもの有無



■ 同居の子どもあり ■ 同居の子どもなし

(単位：人、%)

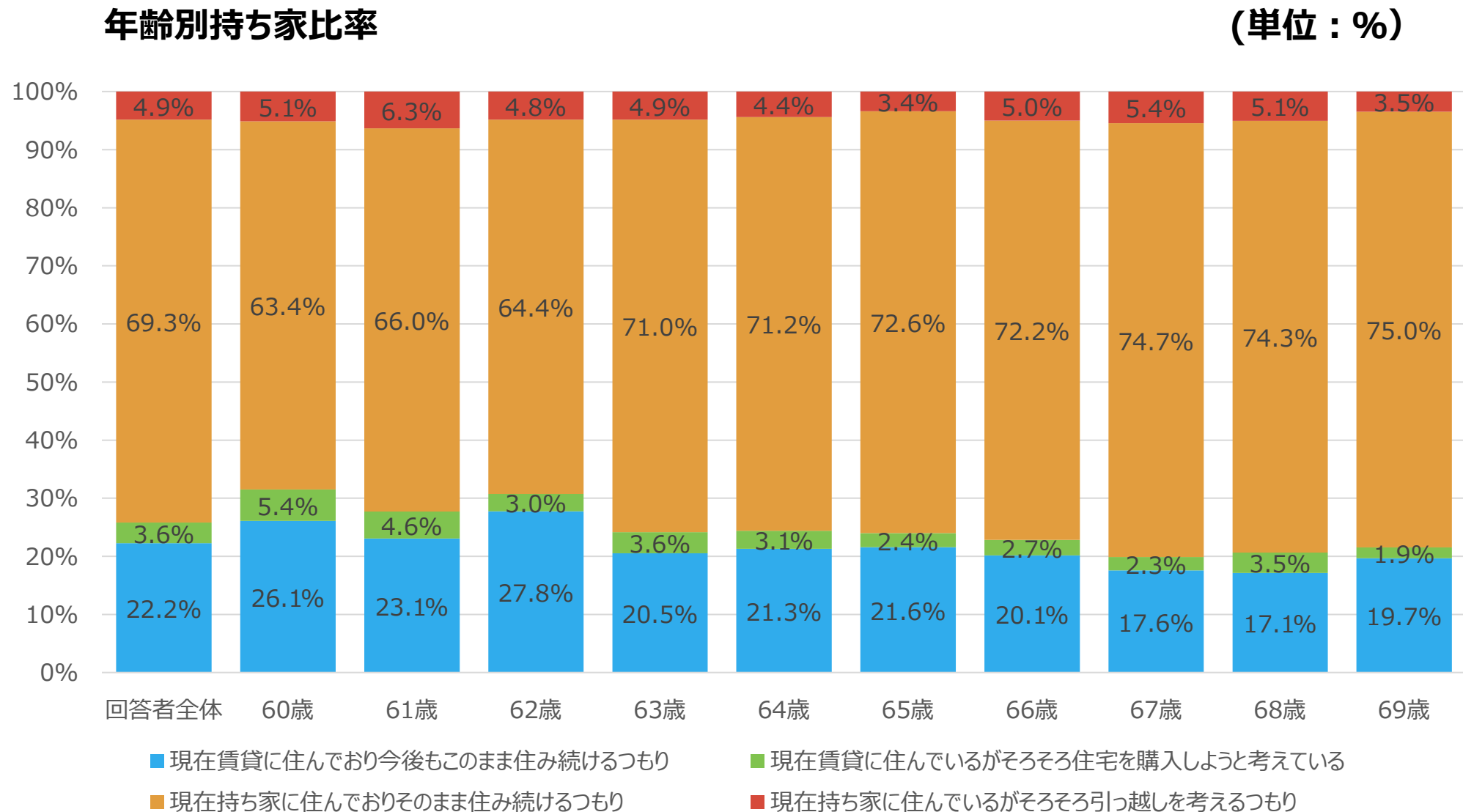
同居の親の有無



■ 同居の親あり ■ 同居の親なし

(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

8割弱が持ち家

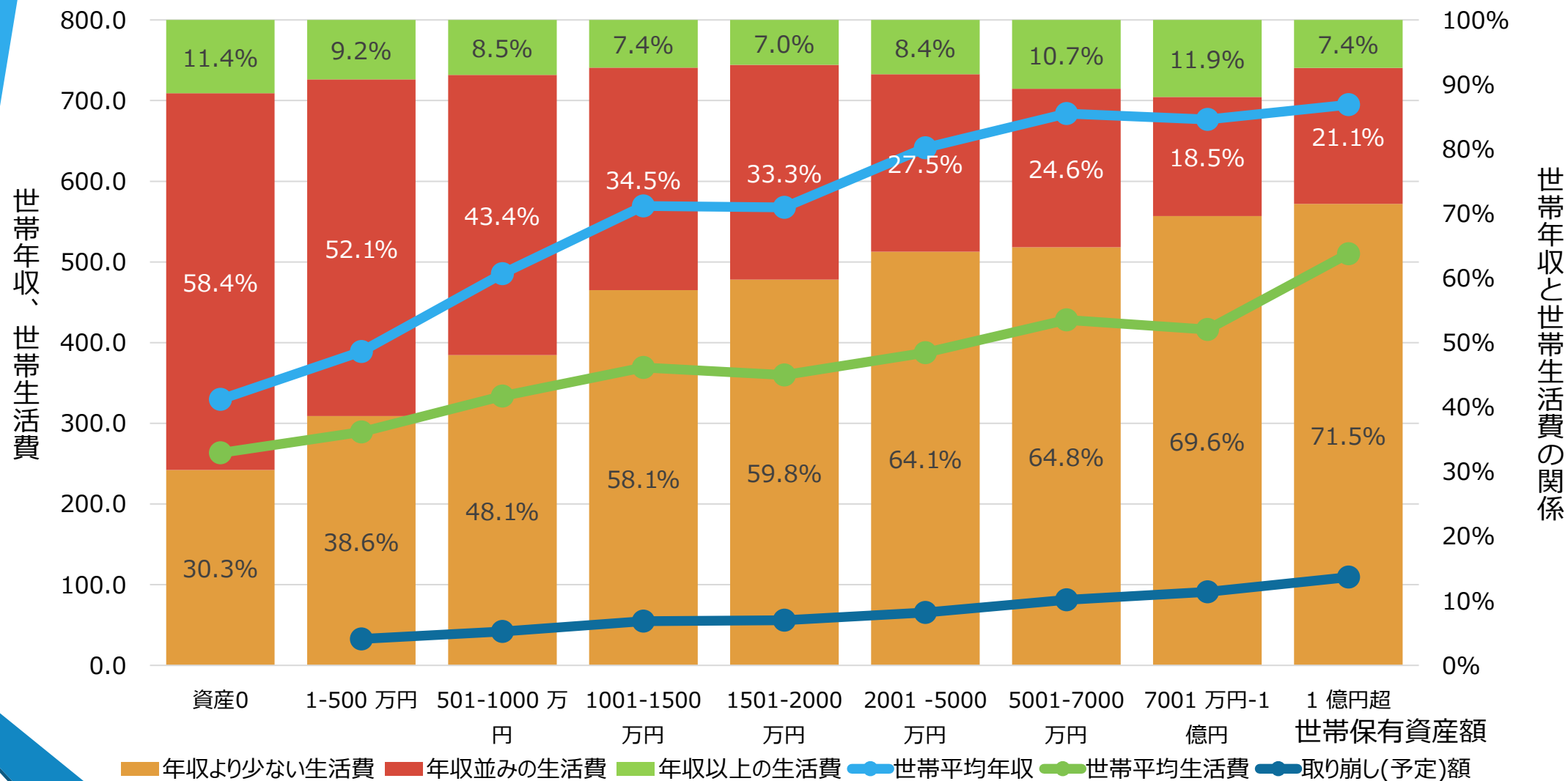


(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

@2025 FinWell Research LLC All rights reserved

資産額が多いほど健全な生活

世帯保有資産額別の世帯生活費と世帯年収



(注) 取り崩し額は資産を保有している4849人が対象、そのほかは6461人(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

高保有資産：夫婦で持ち家

保有資産別の各種生活関連データ一覧①

(単位：人、円、%)

保有資産額帯	全体平均	資産0	1-500万円	501-1000万円	1001-1500万円	1501-2000万円	2001-5000万円	5001-7000万円	7001万円-1億円	1億円超
全体	6461	1612	1312	668	406	445	1083	338	260	337
男性	4915	1181	991	523	304	325	850	256	206	279
	76.1%	73.3%	75.5%	78.3%	74.9%	73.0%	78.5%	75.7%	79.2%	82.8%
60～64歳	3918	1043	810	385	252	261	633	199	153	182
	60.6%	64.7%	61.7%	57.6%	62.1%	58.7%	58.4%	58.9%	58.8%	54.0%
現役	3002	671	606	332	189	208	518	154	133	191
	46.5%	41.6%	46.2%	49.7%	46.6%	46.7%	47.8%	45.6%	51.2%	56.7%
3大都市に居住	2127	511	421	211	127	134	340	99	110	174
	32.9%	31.7%	32.1%	31.6%	31.3%	30.1%	31.4%	29.3%	42.3%	51.6%
家族構成 夫婦のみ	2657	610	451	278	200	197	491	152	119	159
	41.1%	37.8%	34.4%	41.6%	49.3%	44.3%	45.3%	45.0%	45.8%	47.2%
現在賃貸に居住	1667	639	431	148	66	74	178	43	32	56
	25.8%	39.6%	32.9%	22.2%	16.3%	16.6%	16.4%	12.7%	12.3%	16.6%
世帯平均年収(万円)	493.0	329.6	388.8	485.4	569.3	567.6	641.4	683.7	676.5	694.8
世帯平均生活費(万円)	337.6	263.3	289.3	333.8	369.2	360.0	387.4	428.3	416.2	510.2
年間収入－年間生活費(万円)	155.4	66.3	99.6	151.6	200.1	207.6	254.0	255.5	260.4	184.6
年収＞生活費(人数構成比)	48.8%	30.3%	38.6%	48.1%	58.1%	59.8%	64.1%	64.8%	69.6%	71.5%
年収＝生活費(人数構成比)	41.8%	58.4%	52.1%	43.4%	34.5%	33.3%	27.5%	24.6%	18.5%	21.1%
年収＜生活費(人数構成比)	9.4%	11.4%	9.2%	8.5%	7.4%	7.0%	8.4%	10.7%	11.9%	7.4%

(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

高保有資産：運用・取り崩さず

保有資産別の各種生活関連データ一覧②

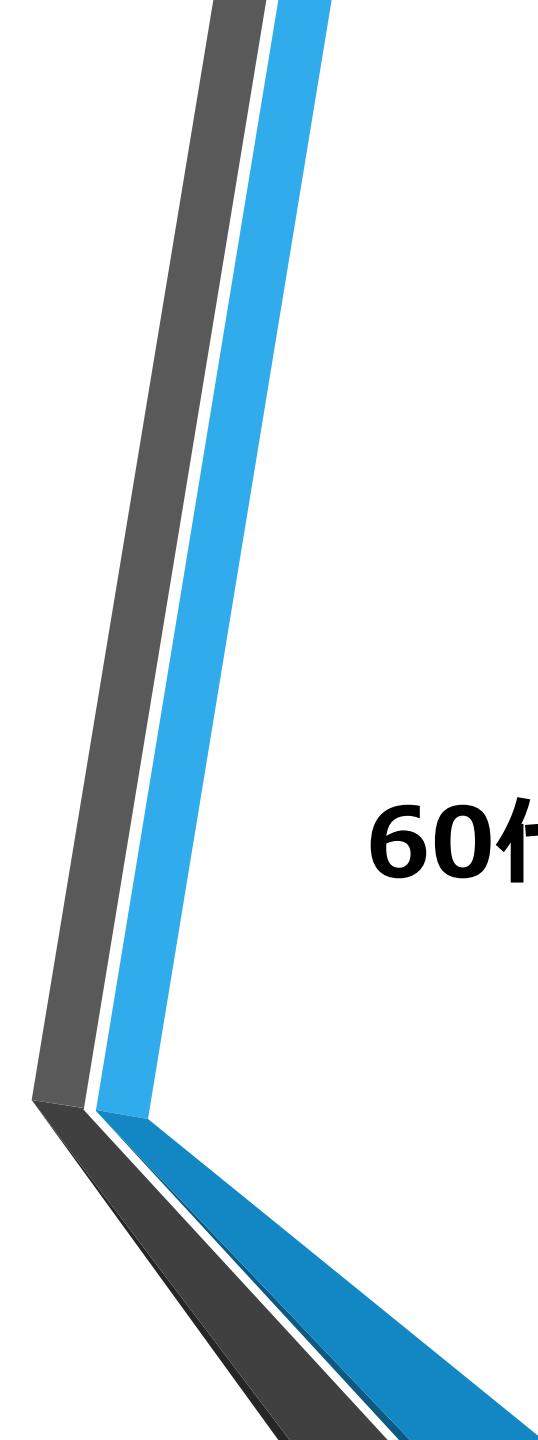
(単位：人、円、%)

	全体平均	資産0	1-500 万円	501-1000 万円	1001-1500 万円	1501-2000 万円	2001 - 5000 万円	5001-7000 万円	7001 万円 -1 億円	1 億円超
全体	6461	1612	1312	668	406	445	1083	338	260	337
公的年金を受給	2871	657	595	314	163	202	513	162	112	153
	44.4%	40.8%	45.4%	47.0%	40.1%	45.4%	47.4%	47.9%	43.1%	45.4%
近視眼的(当てはまる、どちらかといえば当てはまるの合計)	3445	964	800	360	193	214	506	156	105	147
	53.3%	59.8%	61.0%	53.9%	47.5%	48.1%	46.7%	46.2%	40.4%	43.6%
生活全般満足度(満足できる、どちらかといえば満足できるの合計)	3077	475	461	307	220	257	703	224	175	255
	47.6%	29.5%	35.1%	46.0%	54.2%	57.8%	64.9%	66.3%	67.3%	75.7%
現在、資産運用をしている	2535	-	385	297	195	246	691	249	186	286
	39.2%		29.3%	44.5%	48.0%	55.3%	63.8%	73.7%	71.5%	84.9%
取り崩しをしている	1681	-	555	245	149	147	335	103	74	73
	26.0%		42.3%	36.7%	36.7%	33.0%	30.9%	30.5%	28.5%	21.7%
取り崩し(予定)額(万円/年)	42.8	-	32.8	41.8	54.6	55.9	65.4	81.2	91.1	109.3
金融資産取り崩しルールがある	838	-	238	113	69	92	177	63	43	43
	13.0%		18.1%	16.9%	17.0%	20.7%	16.3%	18.6%	16.5%	12.8%
70代の生活は今の生活よりは厳しい	3411	1048	881	383	224	211	430	108	71	55
	52.8%	65.0%	67.1%	57.3%	55.2%	47.4%	39.7%	32.0%	27.3%	16.3%
80歳からの生活に資産を優先的に残す	1408	302	286	166	119	96	258	71	54	56
	21.8%	18.7%	21.8%	24.9%	29.3%	21.6%	23.8%	21.0%	20.8%	16.6%

(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

保有資産の多い人の特徴は

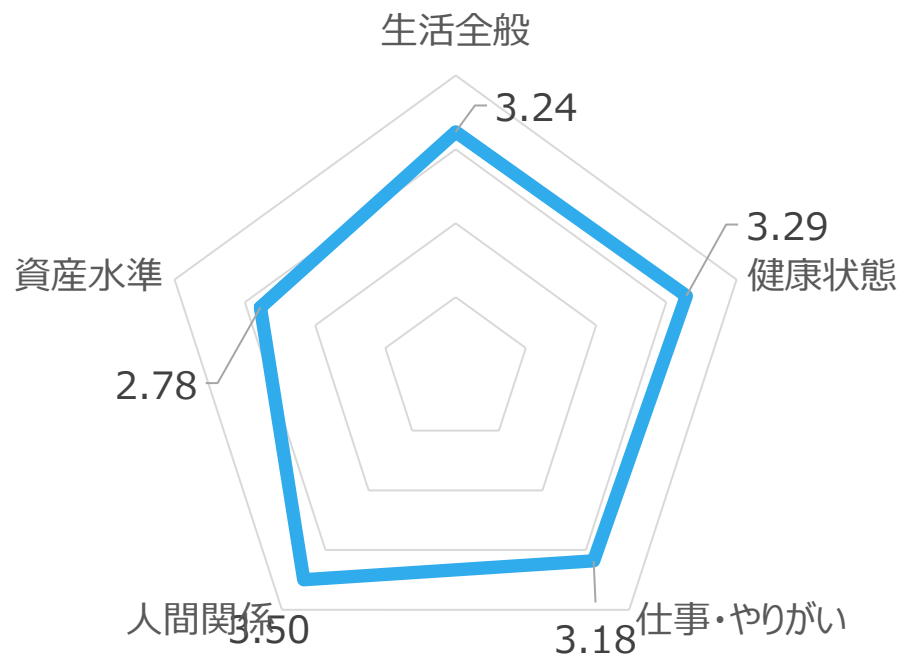
1. 保有資産の多い人は、60代後半、現役で働いていて、3大都市に住んでいる、夫婦世帯の持ち家
2. 年収は高く、その分生活費も高いが、年収以内で生活をしている人が多い
3. 結果として、資産の取り崩しをする人も多くはない。ただ取り崩している人の取り崩し額は資産が多いほど多め
4. 投資をしている人が多く、お金に対して近視眼的(将来の資金よりも目先の資金を優先する)でない人が多い
5. 70代の生活に懸念を持つ人が少ない。とはいえ、80歳以降の生活に資産を優先的に残そうと考えている人は特に多くない



60代6000人の声 2025 : 生活の満足度

資産水準の満足度だけ低い

5つの満足度の平均(6461人) (単位：点)



調査年ごとの満足度の推移 (単位：点)

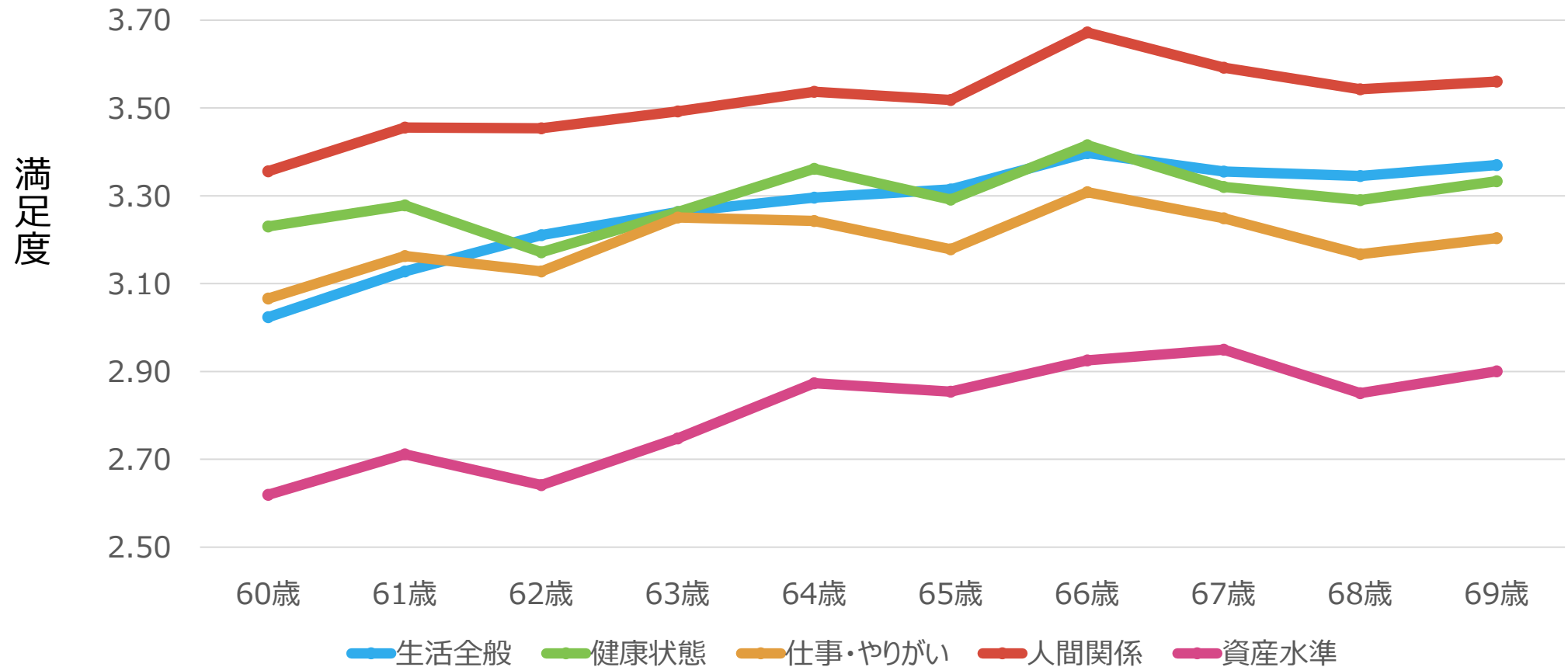
	2025	2024	2023	2022
生活全般	3.24	3.24	3.08	3.17
健康状態	3.29	3.29	3.29	3.30
仕事・やりがい	3.18	3.17	3.15	3.20
人間関係	3.50	3.49	3.50	3.51
資産水準	2.78	2.81	2.69	2.80

(注) 満足度は、5段階評価で、「満足できる」(5点)、「どちらかといえば満足できる」(4点)、「どちらともいえない」(3点)、「どちらかといえば満足できない」(2点)、「満足できない」(1点)の平均。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年から2025年

低水準の資産水準満足度

年齢別満足度の推移

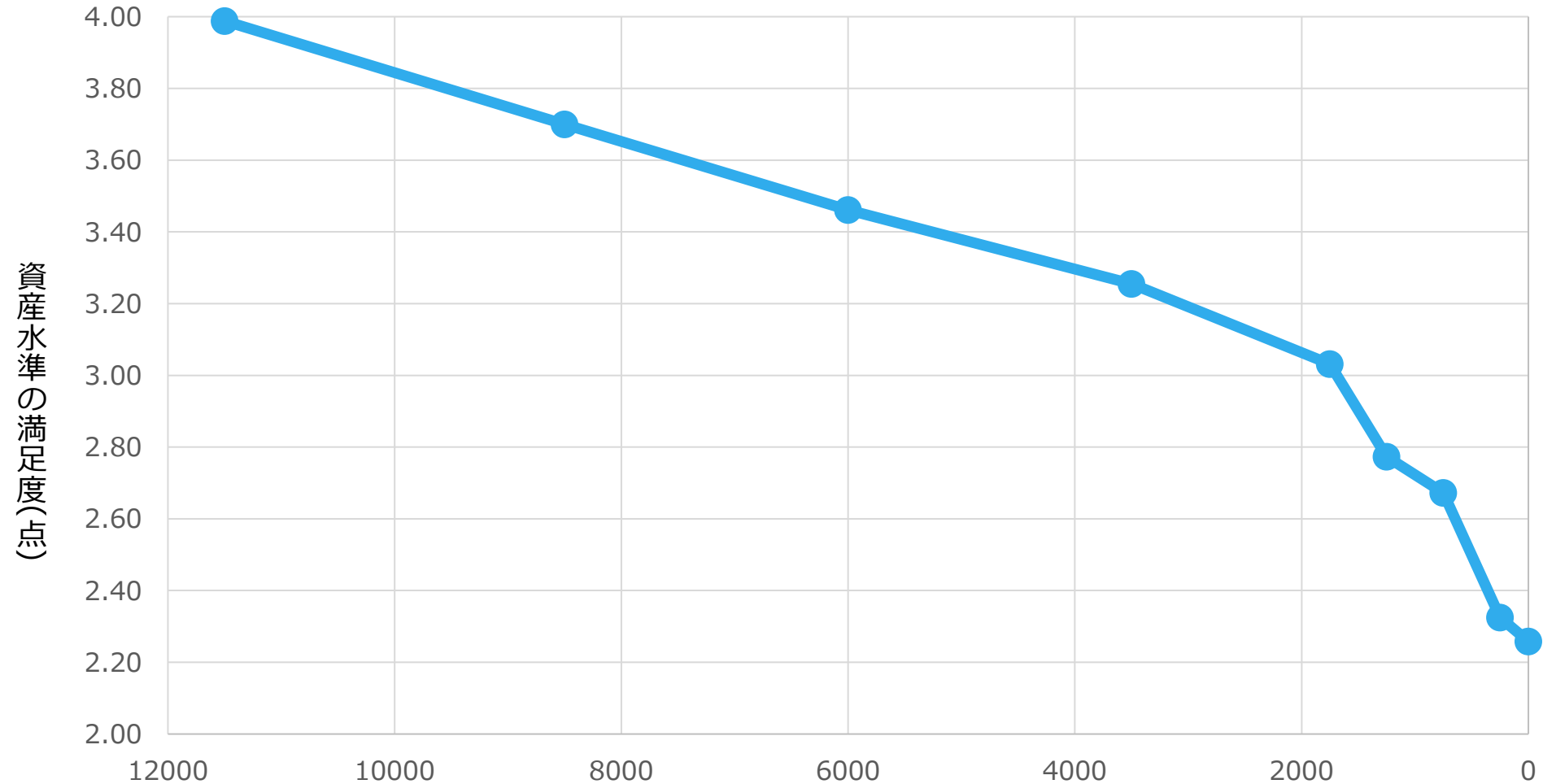
(単位：点)



(注) 満足度は、5段階評価で、「満足できる」(5点)、「どちらかといえば満足できる」(4点)、「どちらともいえない」(3点)、「どちらかといえば満足できない」(2点)、「満足できない」(1点)の平均。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

資産が減れば満足度は下がる

世帯保有資産とその資産の満足度の関係

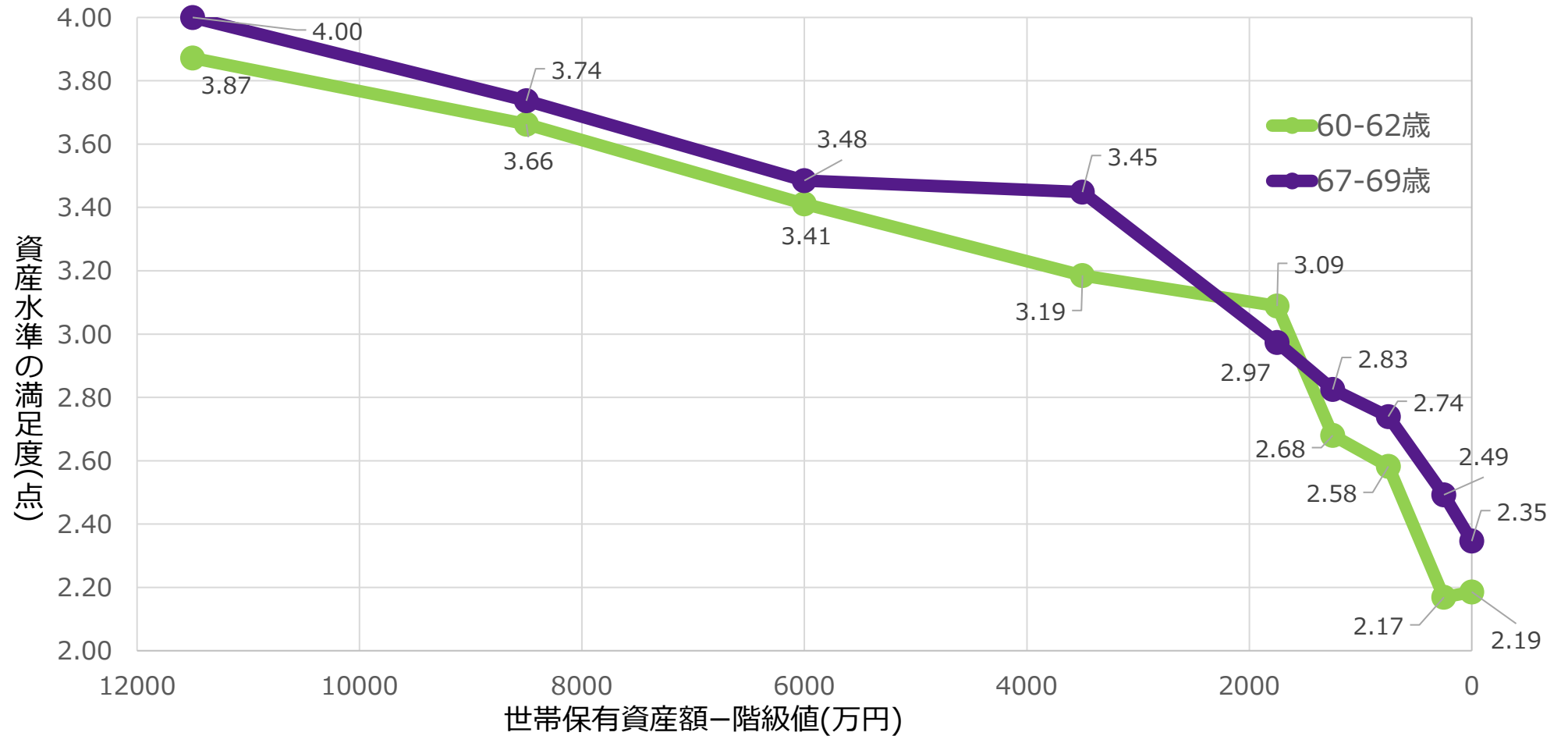


注) 各満足度を「満足できる」から「満足できない」まで5段階評価を行い、世帯保有資産額別に平均値を算出。

出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

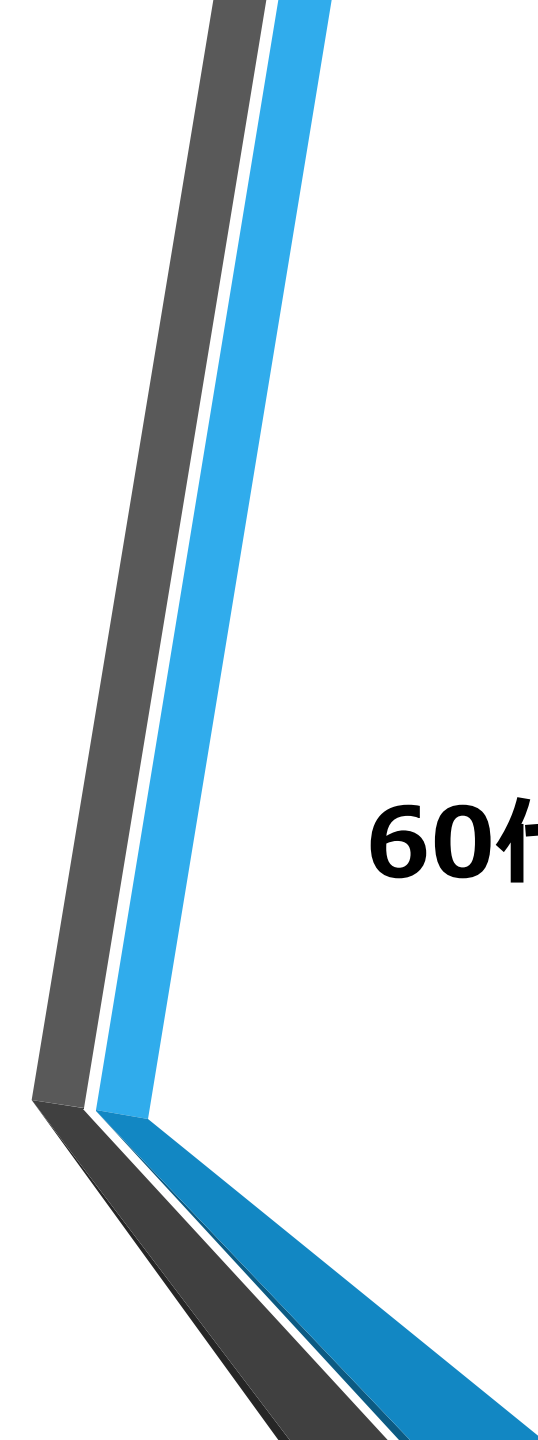
資産が減れば満足度は下がる

世帯保有資産とその資産の満足度の関係(60-62歳と67-69歳の比較)



注) 各満足度を「満足できる」から「満足できない」まで5段階評価を行い、世帯保有資産額別に平均値を算出。

出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

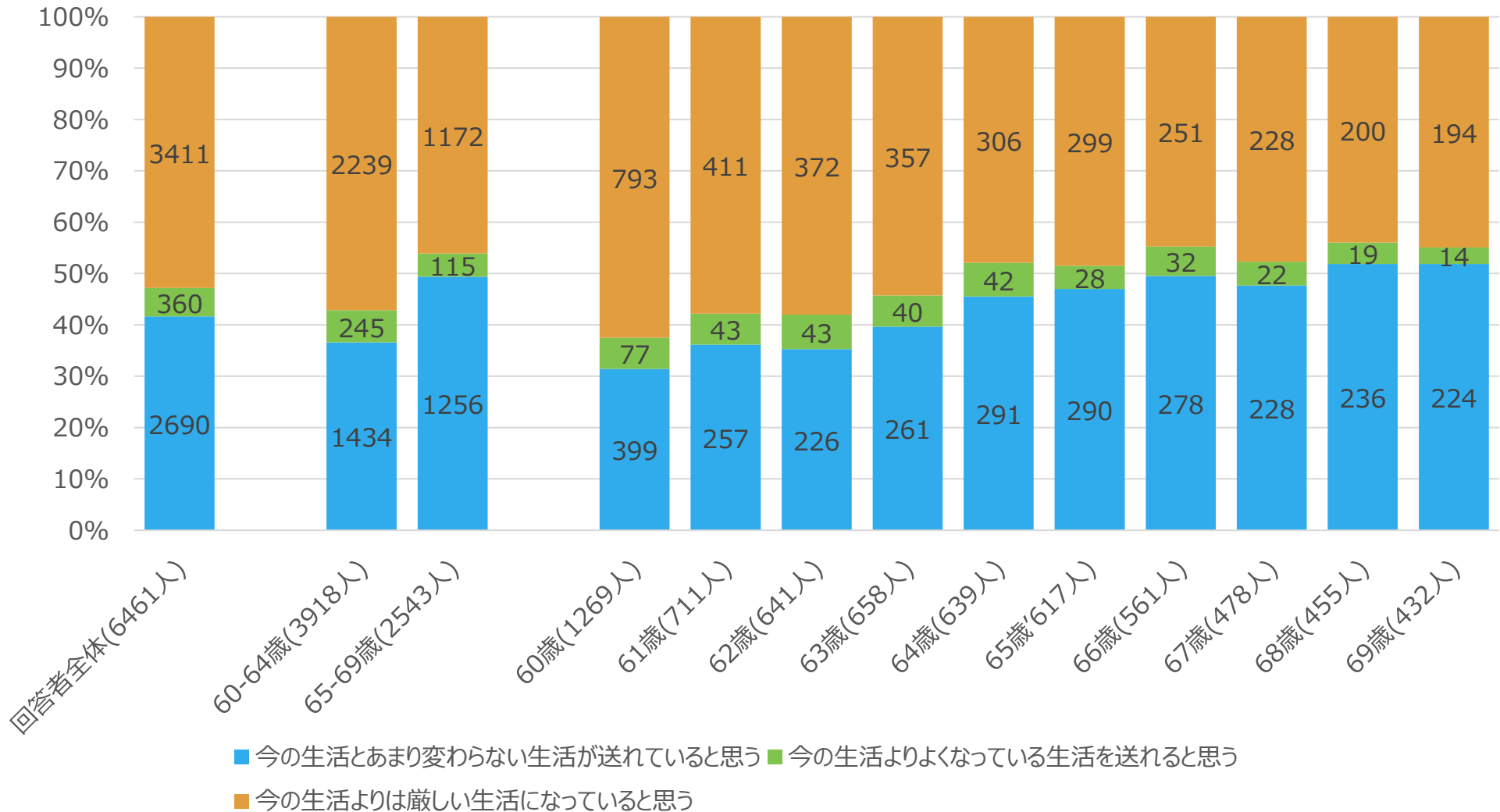


60代6000人の声 2025 : 70代に向けて

世代前半ほど将来不安が大

70歳以降の生活のイメージ

(単位：人)



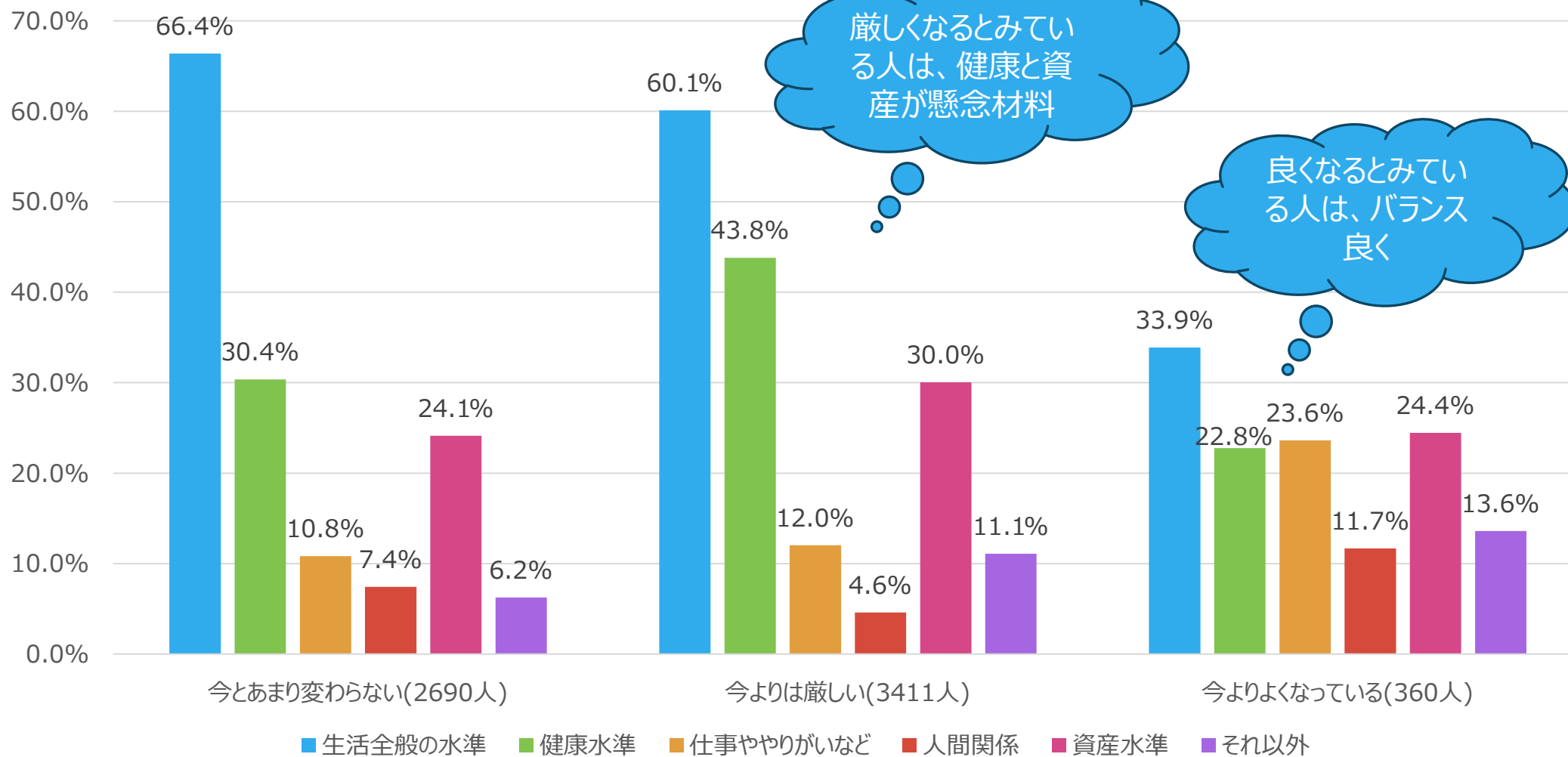
(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

@2025 FinWell Research LLC All rights reserved

健康と資産水準で悪化を懸念

70代の生活イメージの理由として挙げられるものは？

(単位：%)

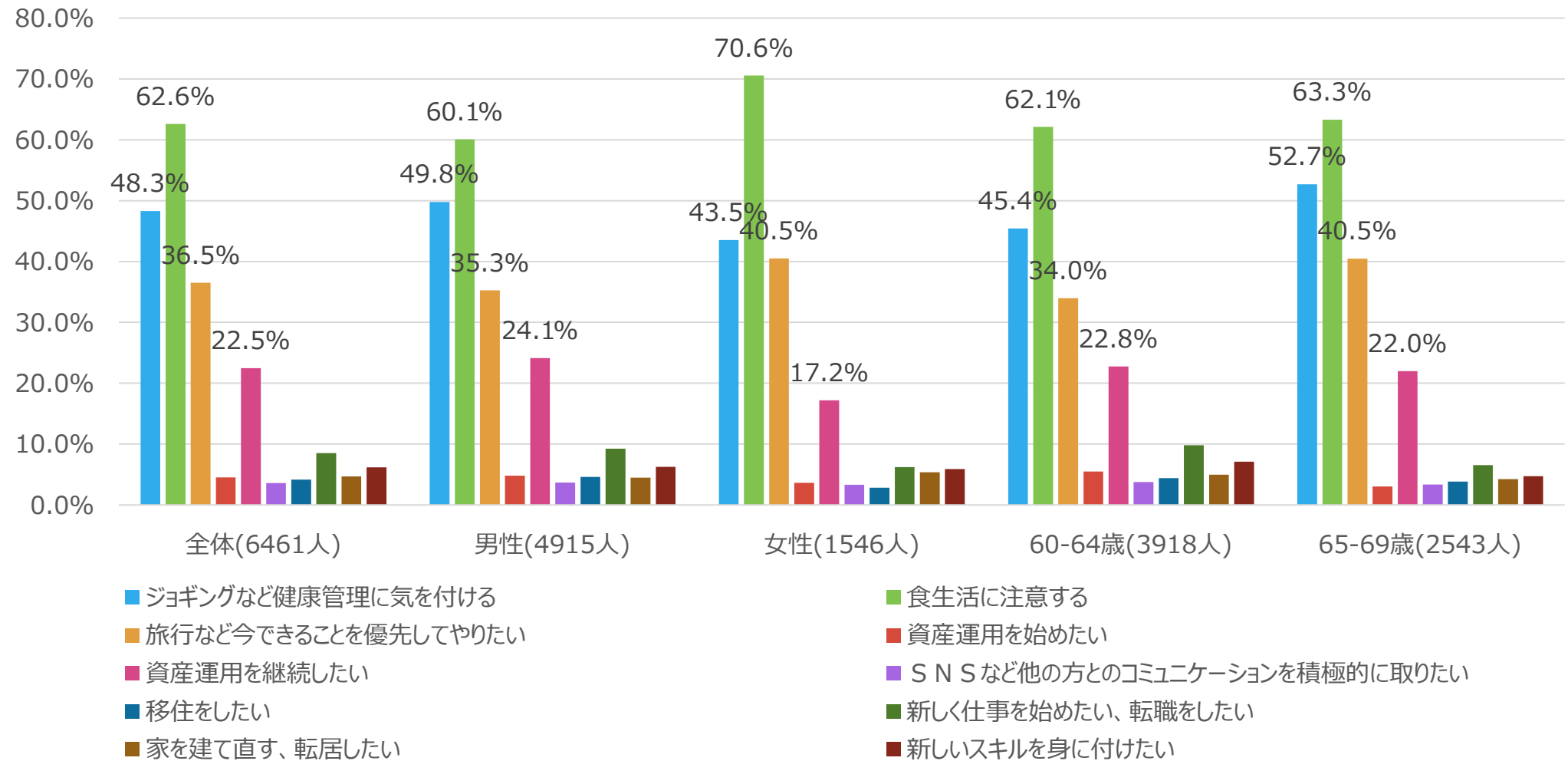


(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

これから食生活に注意する

これから力を入れたいこと(複数回答可)

(単位：人)



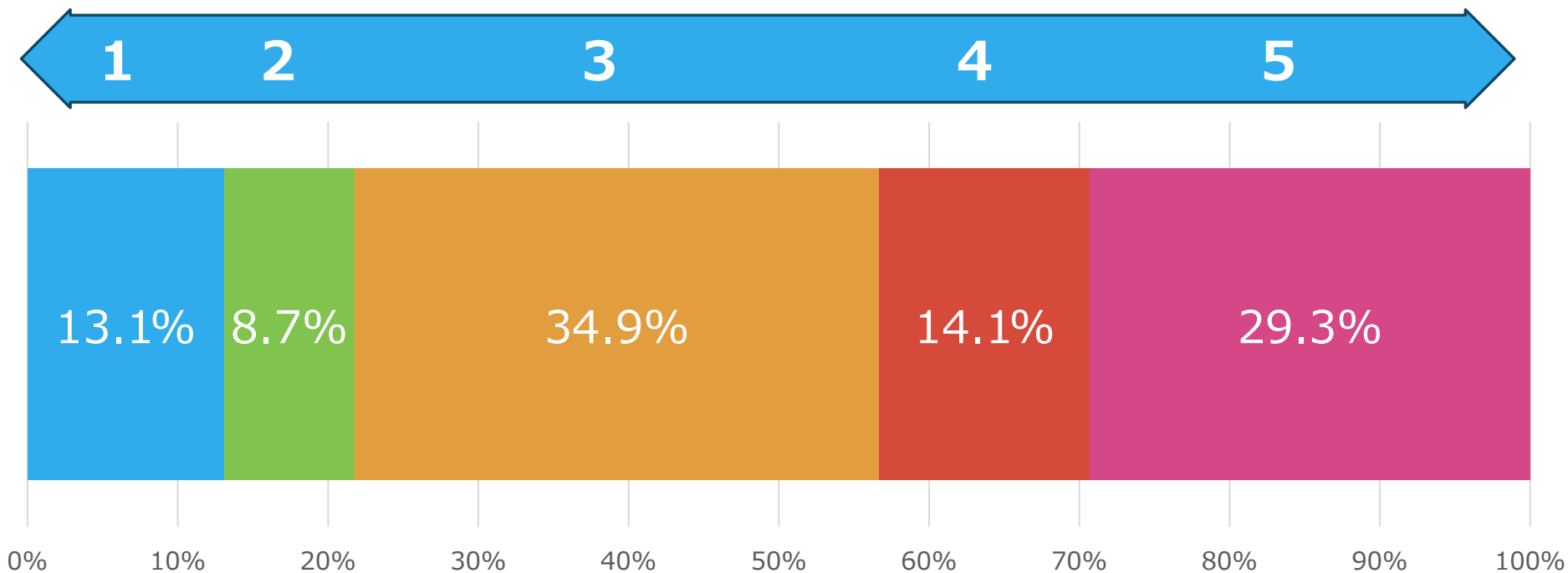
(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

70代までの生活を優先する

保有する資産の使い道として優先するのは79歳までの生活か、80歳以降の生活か？

80歳からの生活のために必要資産の確保を優先する

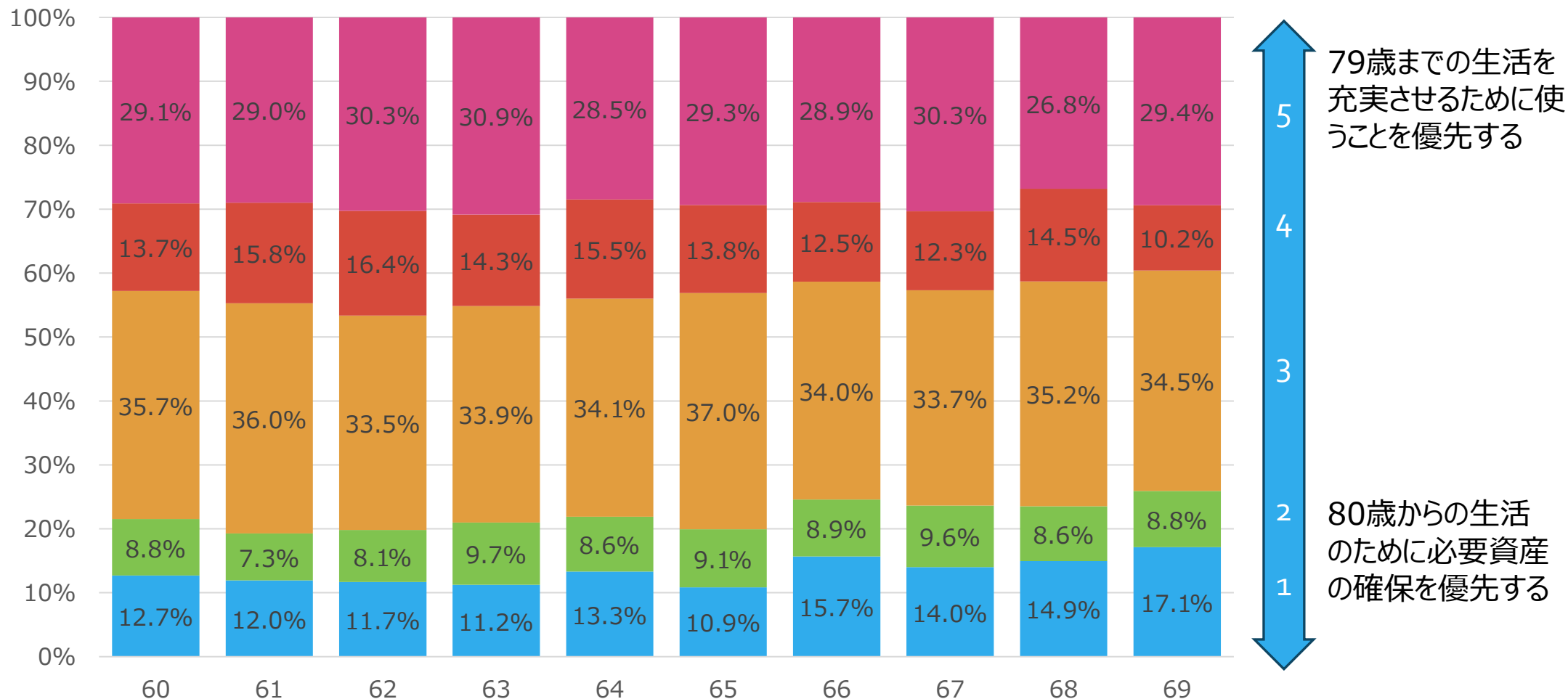
79歳までの生活を充実させるために使うことを優先する



(注)回答者は資産を保有していないと回答した人も含めた6461人。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

70代までの生活を優先する

保有する資産の使い道として優先するのは79歳までの生活か、80歳以降の生活か一年齢別推移



(注)回答者は資産を保有していないと回答した人も含めた6461人。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

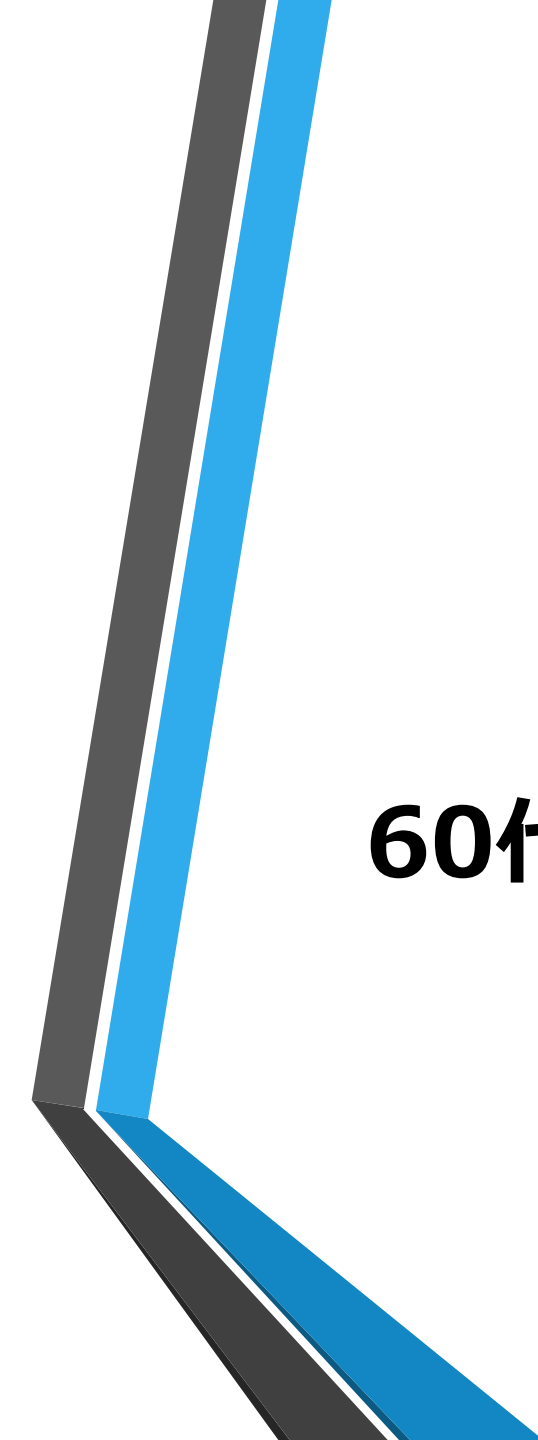
70代以降の生活観

70代の生活のイメージ(悪くなる)に影響を与えている要因(重回帰分析)

R2乗	0.1757	
変 数	偏回帰係数	P 値
生活全般満足度	-0.0565	P < 0.001 **
健康状態満足度	-0.0436	P < 0.001 **
資産水準満足度	-0.1247	P < 0.001 **
居住状況	0.0479	0.0043 **
世帯資産	-0.0020	P < 0.001 **
資産運用	-0.0409	0.0099 **
仕事・やりがい満足度	-0.0129	0.1460
人間関係満足度	0.0114	0.2125
年齢	-0.0053	0.1137
性別	-0.0206	0.2069
配偶者	-0.0007	0.9686
同居の子ども	0.0116	0.4706
同居の親	-0.0008	0.9704
世帯年収	0.0016	0.4504
お金の近視眼度	0.0016	0.7264
資産の使い道優先度	-0.0054	0.2946
年金受給	-0.0422	0.0306 *
年間生活費	0.0084	0.0117 *

- 70代の生活イメージを高めているのは、生活全般、健康、資産水準の満足度の高さ。また世帯資産額の多さ、資産運用をやっていることもイメージを高めるように働く。
- 居住状況は、持ち家の人の方が70代の生活イメージが悪くなるように影響している。

(注)性別は男性 = 1、配偶者有り = 1、同居子ども有り = 1、同居親有り = 1、居住状況は持ち家 = 1、年金受給 = 1、資産運用助教は資産運用をしている = 1 でダミー化、お金の近視眼度は「1年後の11万円よりも今の10万円を受け取る」の当てはまらない度合い、資産の使い道は70代の生活を優先する度合い。**は1%未満、*は5%未満の有意度（出所）「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

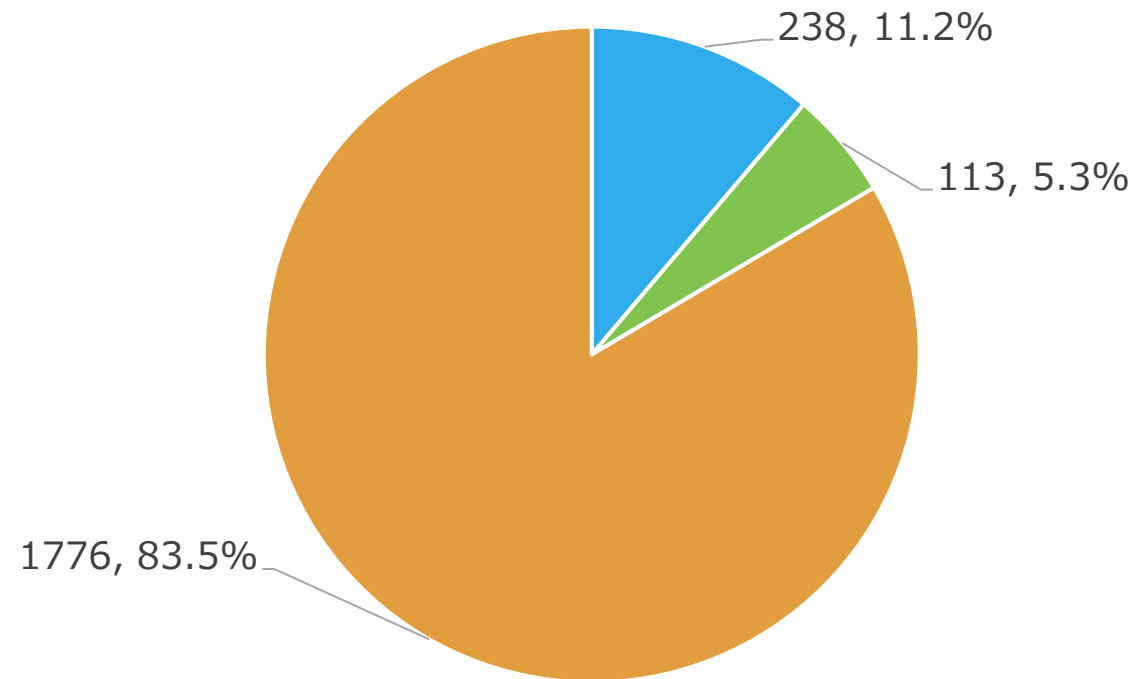


60代6000人の声 2025：移住の実態と評価

16%が移住を検討

東京・大阪・名古屋に住む60代2127人のうち移住を検討した人は351人

(単位：人)



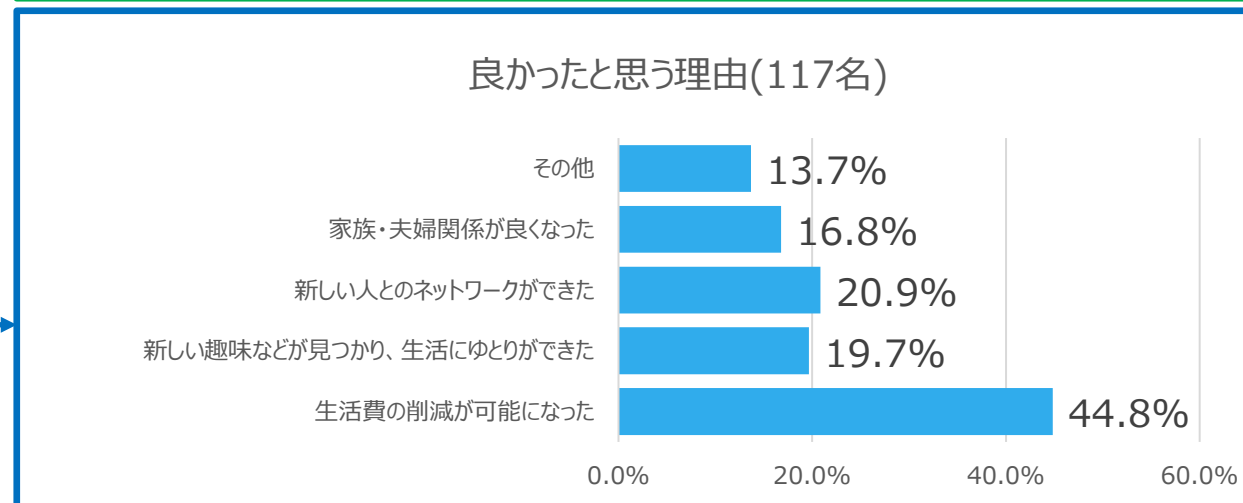
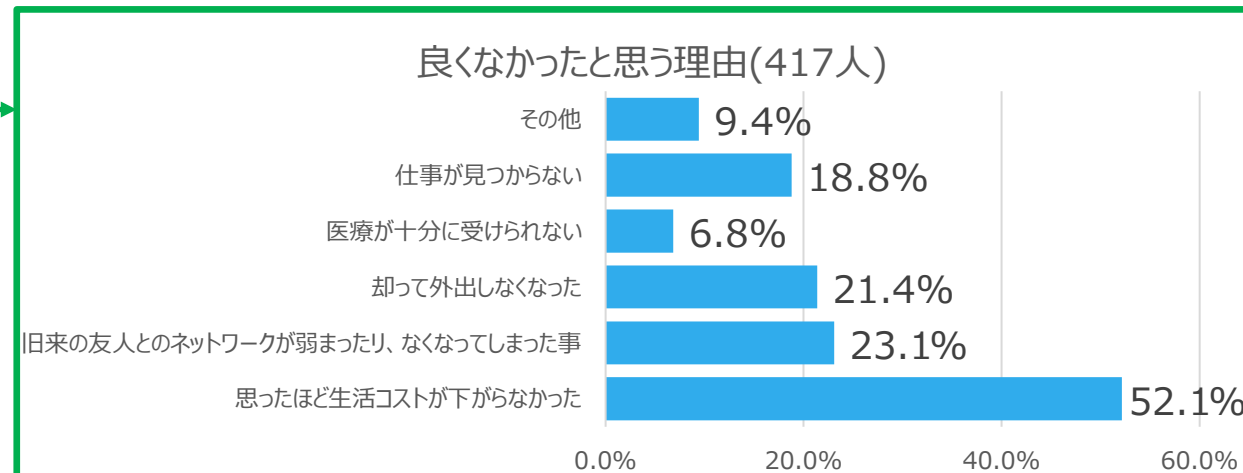
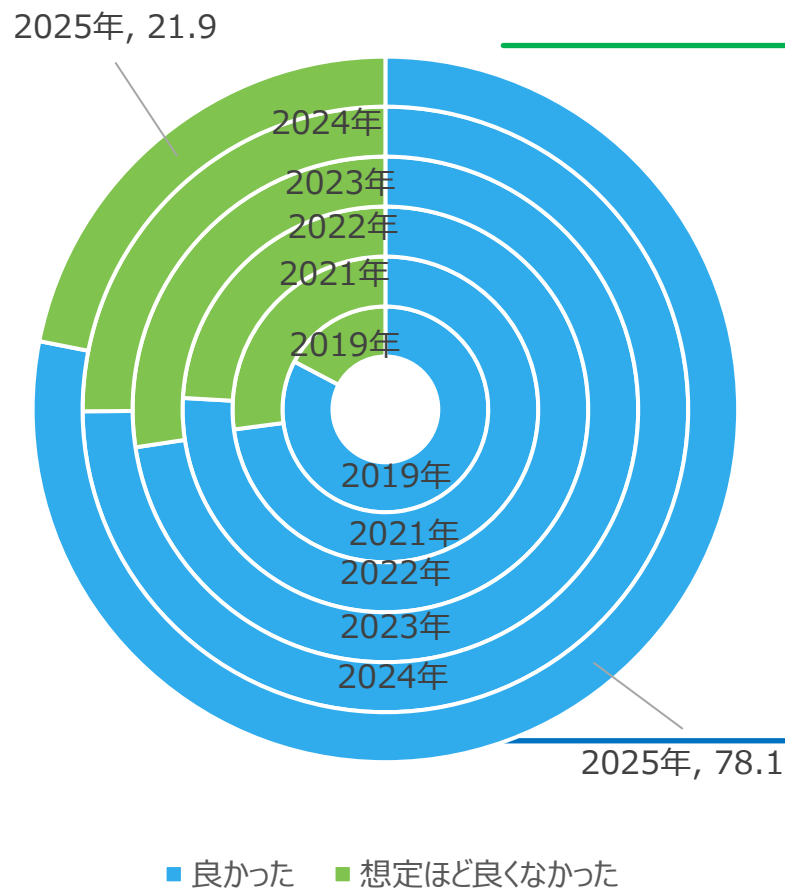
- 現在、「地方都市」への移住を検討している
- 過去に、「地方都市」への移住を検討したがあきらめた
- 今まで、「地方都市」への移住を考えたことはない

(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

4分の3が移住を評価

移住をしてよかったか、思ったほど良くなかったか

(単位：人)

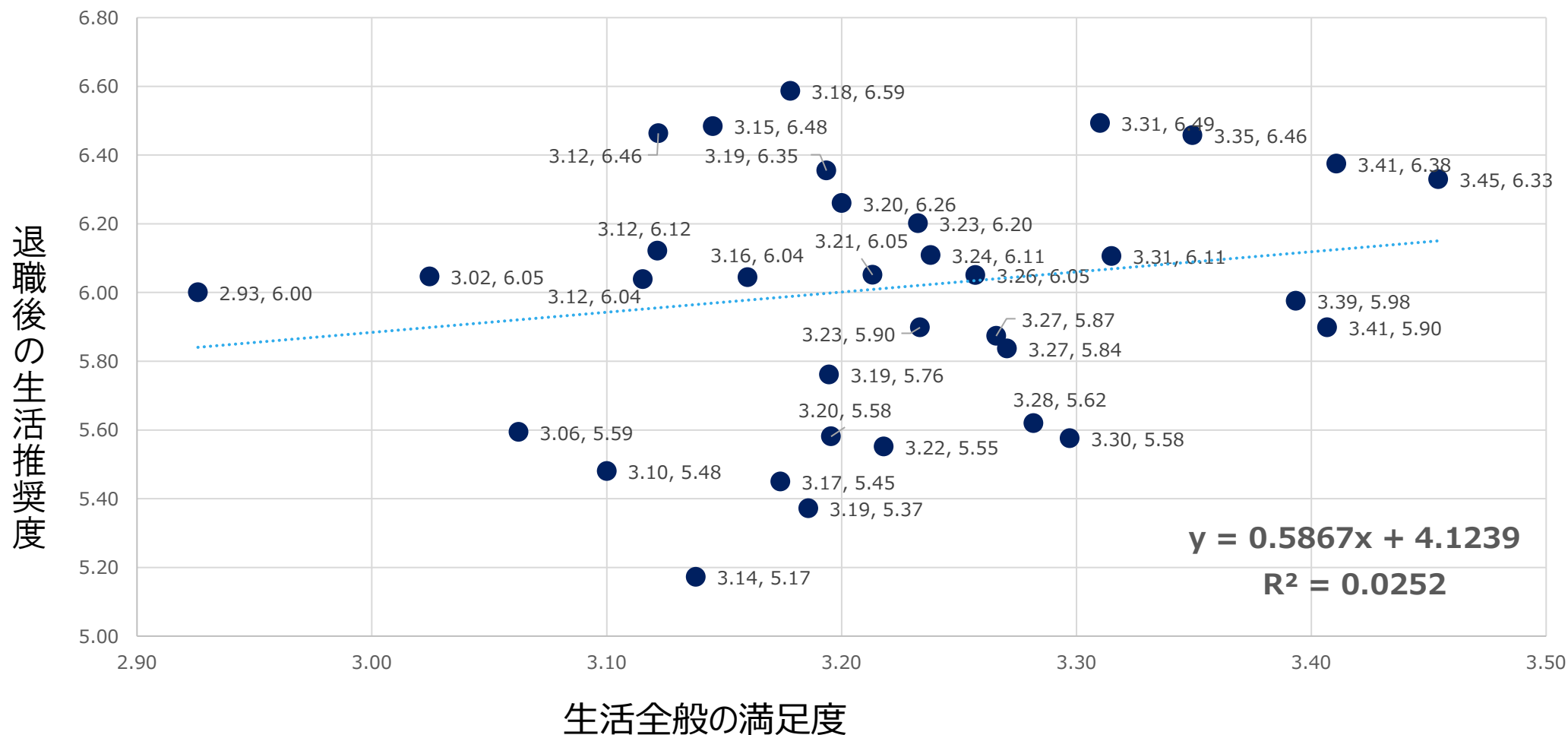


(注)10年以内に地方都市に移住してきた人。2019年306人、2021年269人、2022年440人、2023年435人、2024年431人、2025年524名。(出所) 合同会社フィンウェル研究所、地方都市移住調査(2019年、2021年)、「60代6000人の声」(2022年、2023年、2024年、2025年)

生活全般満足度に推奨先比例

都市別 生活全般の満足度と退職後の生活推奨度

(単位：点)



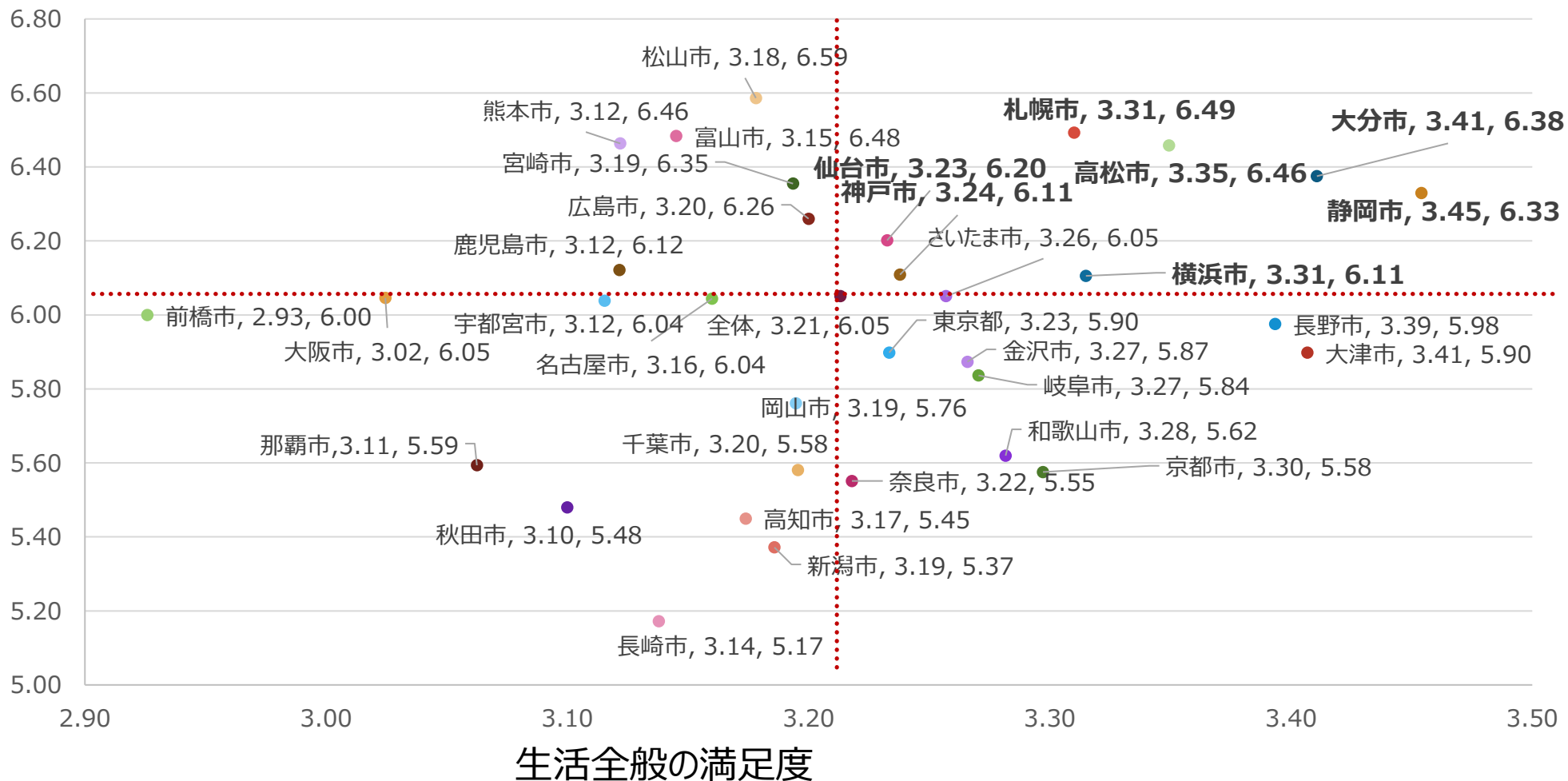
(注)退職後の生活推奨度は、現在住んでいる都市が退職後の生活場所として他の人に薄めるかを0(住むべきではない)から10(是非住むべきだ)までの11段階で評価してもらった平均値。生活全般の満足度は1(満足できない)から5(満足できる)の5段階評価で聞いた平均値。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

生活全般満足度と推奨度

都市別 生活全般の満足度と退職後の生活推奨度

(単位：点)

退職後の生活推奨度



(注)退職後の生活推奨度は、現在住んでいる都市が退職後の生活場所として他の人に奨めるかを0(住むべきではない)から10(是非住むべきだ)までの11段階で評価してもらった平均値。生活全般の満足度は1(満足できない)から5(満足できる)の5段階評価で聞いた平均値。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

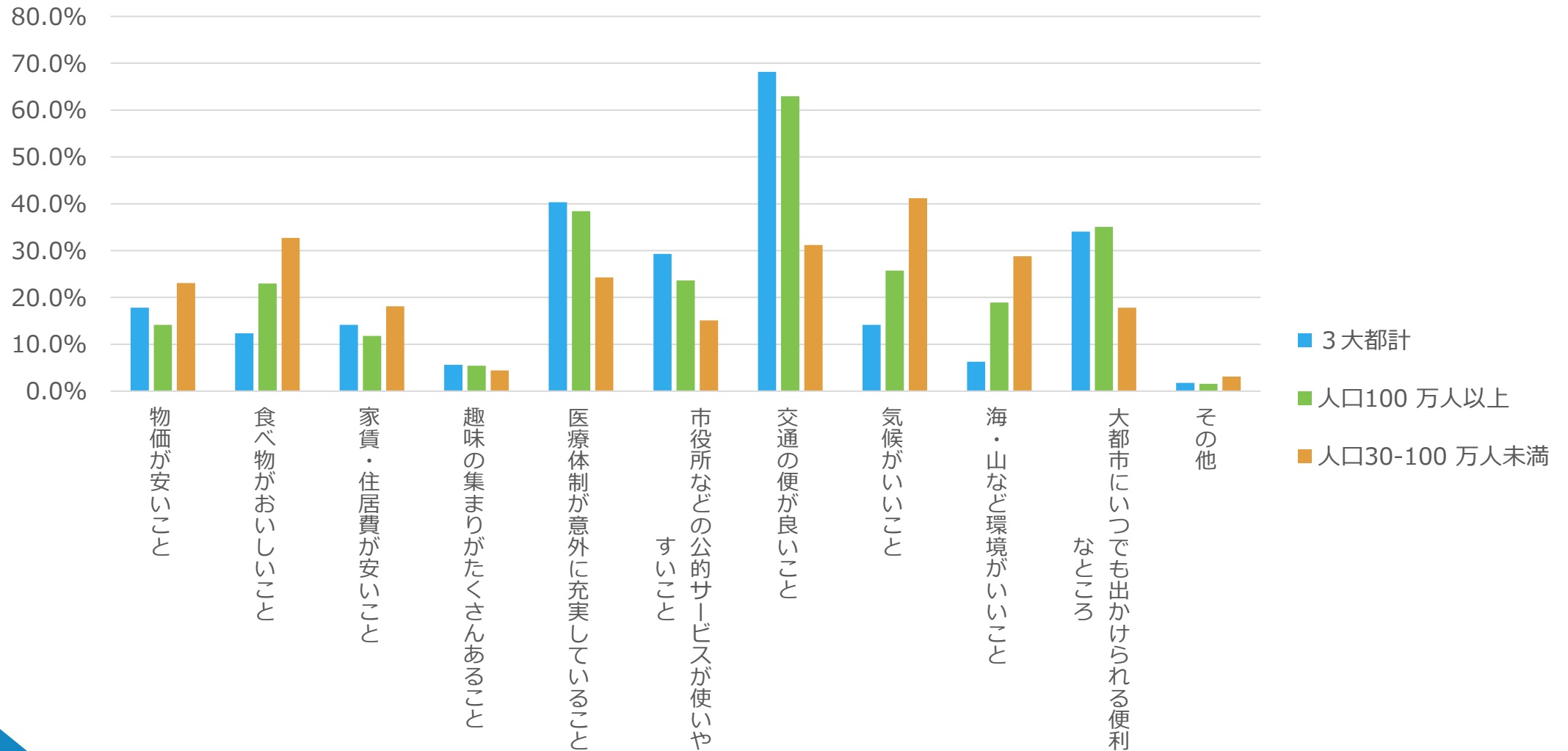
生活全般満足度と推奨度

(注)退職後の生活推奨度は、現在住んでいる都市が退職後の生活場所として他の人に奨めるかを0(住むべきではない)から10(是非住むべきだ)までの11段階で評価してもらった平均値。生活全般の満足度は1(満足できない)から5(満足できる)の5段階評価で聞いた平均値。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

大都市の良さ：医療、交通便

現在住んでいる都市の良いところ

(単位：%)



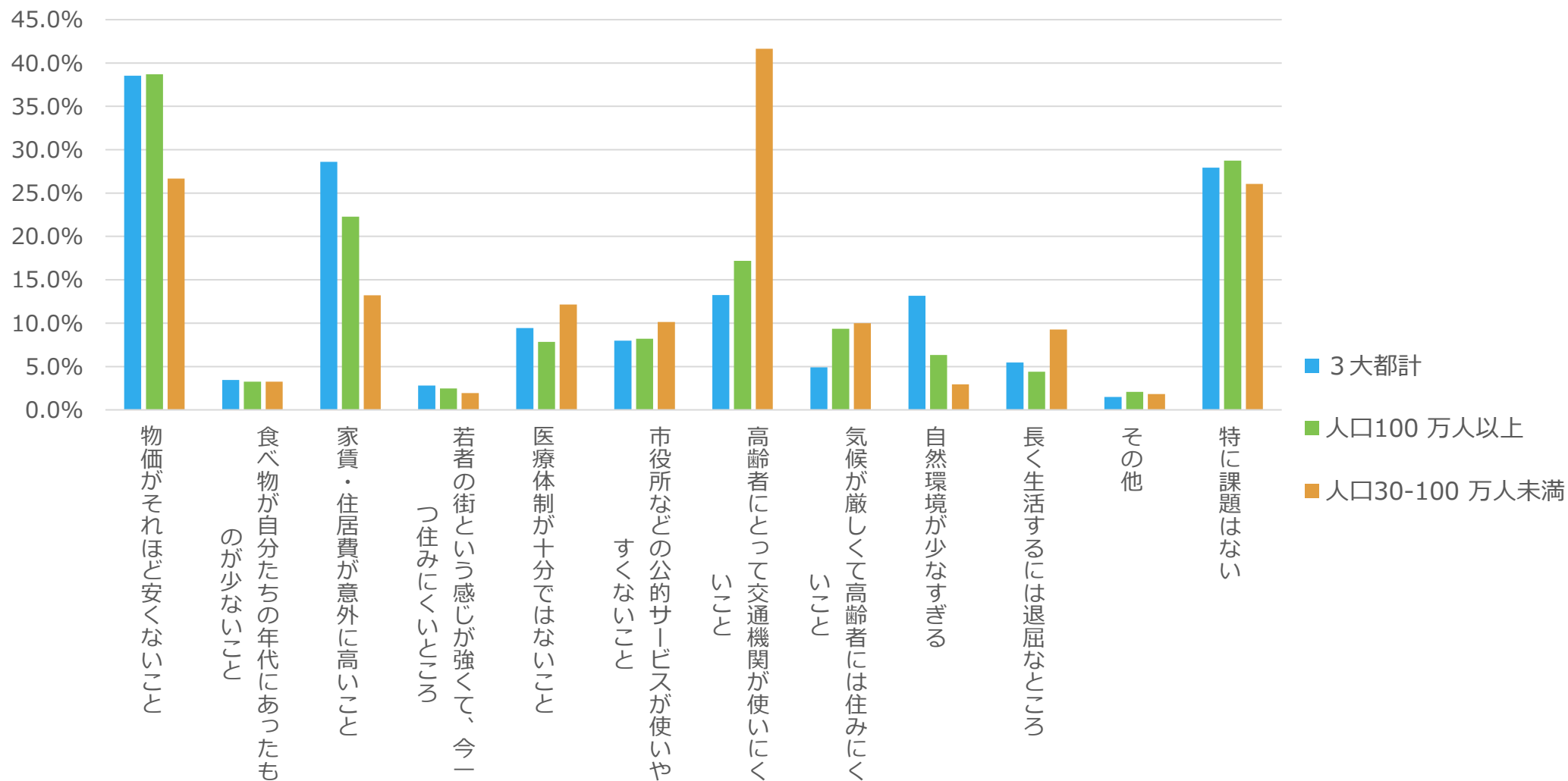
(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

@2025 FinWell Research LLC All rights reserved

大都市の課題：物価

現在住んでいる都市の課題

(単位：%)



(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

@2025 FinWell Research LLC All rights reserved

医療と大都市アクセスが共通項

自身が住んでいる都市を退職後の生活場所として推奨する度合いの重回帰分析

	3大都市		人口100万人以上都市		人口30万人以上都市	
R2乗	0.1196		0.1690		0.1590	
変 数	偏回帰係数	P 値	偏回帰係数	P 値	偏回帰係数	P 値
居住地の良い点 = 物価	0.1139	0.3680	-0.0477	0.7097	0.2011	0.0665
居住地の良い点 = 食事	0.1434	0.3150	0.7434 P < 0.001**		0.7978 P < 0.001**	
居住地の良い点 = 住居費	-0.0687	0.6200	-0.0291	0.8328	0.1098	0.3514
居住地の良い点 = 趣味	0.6320 0.0013**		0.5477 0.0037**		0.0930	0.6669
居住地の良い点 = 医療	0.4772 P < 0.001**		0.3951 P < 0.001**		0.3464 0.0019**	
居住地の良い点 = 公共サービス	0.4645 P < 0.001**		0.4375 P < 0.001**		0.1579	0.2379
居住地の良い点 = 交通の便	0.4440 P < 0.001**		0.6032 P < 0.001**		0.2276	0.0291*
居住地の良い点 = 気候	0.1726	0.2043	0.3042 0.0033**		0.6306 P < 0.001**	
居住地の良い点 = 環境	-0.1484	0.4380	0.5609 P < 0.001**		0.3911 P < 0.001**	
居住地の良い点 = 大都市アクセス	0.6109 P < 0.001**		0.4008 P < 0.001**		0.4421 P < 0.001**	
居住地の課題 = 物価	-0.3269 P < 0.001**		-0.2475 0.0061**		-0.2589	0.0118*
居住地の課題 = 食事	0.7248 0.0040**		-0.1436	0.5587	0.1436	0.5696
居住地の課題 = 家賃	-0.5124 P < 0.001**		-0.4101 P < 0.001**		-0.3262	0.0140*
居住地の課題 = 街のづくり	-0.5042	0.0712	-0.3288	0.2325	0.8156	0.0112*
居住地の課題 = 医療体制	-0.1554	0.3586	-0.3910	0.0194*	-0.4055 0.0043**	
居住地の課題 = 公的サービス	-0.5267 0.0027**		-0.4843 0.0030**		-0.1240	0.4165
居住地の課題 = 交通の便	-0.1572	0.2709	-0.4321 P < 0.001**		-0.2475 0.0096**	
居住地の課題 = 気候	-0.3724	0.0855	-0.2818	0.0578	-0.7976 P < 0.001**	
居住地の課題 = 環境	-0.3533 0.0082**		-0.2095	0.2354	-0.4413	0.0907
居住地の課題 = 退屈	-0.3860	0.0520	-0.5196	0.0130*	-0.8184 P < 0.001**	

- 都市生活推奨度を高める要素は、都市規模共通項は、医療体制と大都市へのアクセスの2点のみ。
- 都市規模で明暗が出るのが、食事、家賃・住居費、気候、環境。
- 30万人以上都市では、「退屈」が推奨度に最も大きく影響する課題。

(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2025年

重要事項

- 当該資料は信頼できる情報、データをもとに合同会社フィンウェル研究所が作成しておりますが、正確性・完全性に関して当社が保証するものではありません。
- 当該資料に記載された情報、意見は作成時点のものであり、その後の情勢の変化などによって予告なく変更することがあります。
- いずれの情報、データ、意見は将来の傾向などを保証もしくは示唆するものではありません。
- 当該資料に係る一切の権利は引用部分を除いて弊社に所属し、いかなる目的であれ当該資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断りします。

合同会社フィンウェル研究所